

# 医療と介護の連携

～ ケアマネジャーと

病院・診療所（かかりつけ医）との連携～

「医療と介護の連携に関する調査報告」

「北九州市リハビリテーション支援体制検討委員会」

## 目 次

はじめに	・・・1
医療と介護の連携について	
～医療と介護の連携に関する調査報告のまとめ～	・・・2
1 現状と課題	・・・2
2 ケアマネジャーと診療所（かかりつけ医）の連携	・・・3
（1）かかりつけ医との面談	・・・3
（2）面談を補完する連絡手段（FAX等）	・・・4
（3）ケアマネタイム	・・・5
（4）サービス担当者会議	・・・5
（5）ケアプラン	・・・6
3 ケアマネジャーと病院との連携	・・・7
（1）病院との連携	・・・7
（2）入院時連携	・・・8
（3）退院時連携	・・・8
4 連携シートについて	・・・9
5 まとめ	・・・11
医療と介護の連携に関する調査報告	・・・13
1 調査概要	・・・13
2 調査結果	・・・16
（1）連携について	・・・16
（2）連携の方法	・・・21
（3）必要な情報と情報提供について	・・・26
（4）連携が図りにくいと思ったこと	・・・28
（5）連携に必要なことや工夫していること（自由記載）	・・・31
3 調査票	・・・33

（参考）

平成 19 年度 高齢者等実態調査結果

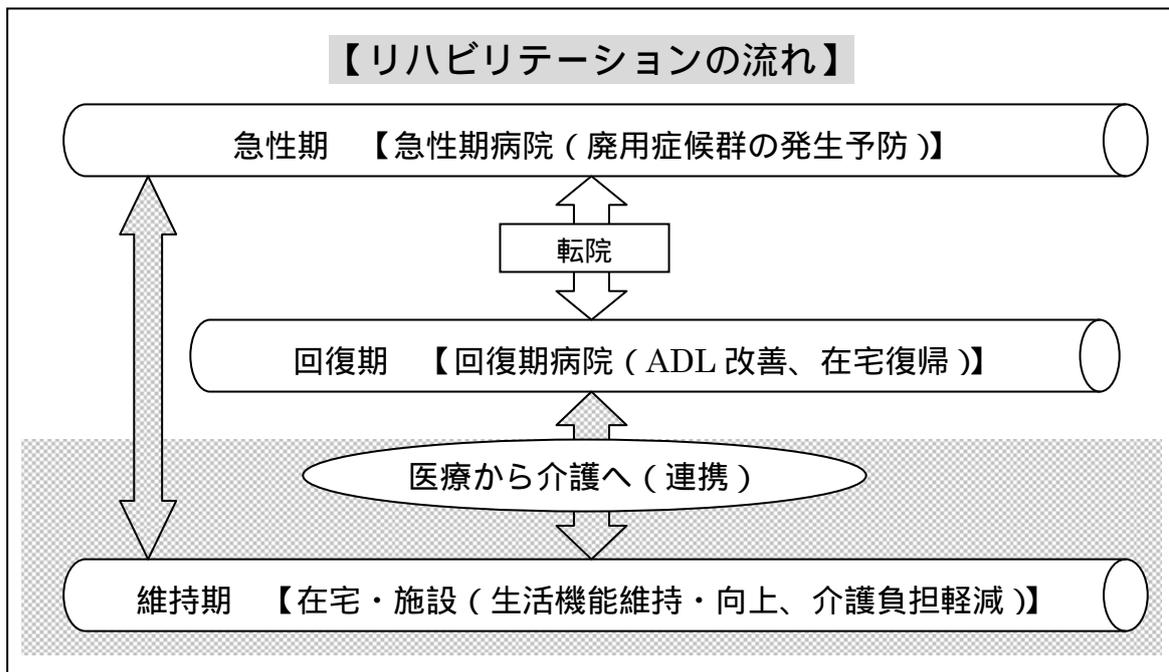
## はじめに

高齢化の進展や脳卒中等の増加により、リハビリテーションが必要な患者が増えています。多くの方は、「できる限り、住み慣れた地域でいきいきと生活したい」と望んでおり、在宅生活への円滑な移行に向けた支援が必要となっています。

北九州市では、「北九州市リハビリテーション支援体制検討委員会（委員長 石束隆男 北九州市医師会副会長）」を設置し、医療機関相互の連携、医療と介護の連携を促進する「連携の北九州モデル」の構築に向けて、急性期から回復期、維持期（在宅）まで、総合的なリハビリテーションサービスを提供するための具体的な取り組みを進めています。

特に、急性期病院や回復期病院から退院後、在宅生活を円滑に進めるためには、医療保険から介護保険への移行など、医療と介護に関わるスタッフが密接に連携して、切れ目なくサービスを受けることができるよう支援していく必要があります。

そのため、医療面を支える病院や診療所、介護面で重要な役割を担うケアマネジャーに対し、医療と介護の連携に関する調査を実施し、連携の課題等を明らかにするとともに、円滑な連携を行うための方策等について検討を行いました。



上図で、急性期あるいは回復期から維持期へのつなぎの領域（網掛けの部分）では、医療から介護への円滑な移行を進めるため、これまでもさまざまな取り組みがなされています。

カンファレンス      サービス担当者会議      退院前同行訪問      情報共有      など  
円滑な連携を図るための工夫  
・ケアマネタイム      ・情報提供書様式化（連携シート）      など

## 1 現状と課題

- ・ケアマネジャー、病院・診療所（かかりつけ医）ともに、「連携できている」という回答が多いものの、「連携が図れない。連携が図りにくい。」といったことも多い。
- ・ケアマネジャーの基礎となる資格によって、医療機関に連絡することへの抵抗が大きい。

急性期病院あるいは回復期病院から在宅生活への移行にあたって、かかりつけ医をはじめ医療機関とケアマネジャーとの連携は、依然として十分ではないと言われています。

そうした中、今回調査した「医療と介護の連携に関する調査」においては、ケアマネジャーの約8割が、病院や診療所と「連携できている（十分に連携と概ね連携を合わせた）」と回答しています。一方、病院の約8割（85.9%）、診療所の約7割（69.1%）も、ケアマネジャーと「連携できている」と回答しており、全体的には「概ね連携できている」との回答が多い結果となっています。（P16～20）

また、今回の調査では、利用者・患者の情報を得る際「連携が図れない。連携が図りにくい。」と思ったことがあるかについて尋ねています。そこでは、ケアマネジャーの約8割（80.2%）が「連携が図りにくい」と思ったことがあると回答し、その理由としては、「かかりつけ医が多忙なため連絡しても会ってもらえないことがある。」が最も多く、次いで「かかりつけ医に連絡することに抵抗がある（敷居が高く感じられる）」となっています。（P28～29）

さらに、ケアマネジャーの基礎となる資格別に見てみると、看護師・保健師では、「かかりつけ医と連携できている」が約9割となっているのに対し、介護福祉士では「連携できている」が約7割、「ほとんど連携できていない」が2割を超えており、基礎となる資格によって、医療機関へ連絡することに抵抗があることがうかがえます。（P16～17, P30）

### □ 解決すべき課題

- ・ケアマネジャーの基礎となる資格に関わらず、医療機関に連絡することへの抵抗（「医療は敷居が高い」という意識）を小さくし、連携を円滑にすること
- ・ケアマネジャー、病院・診療所（かかりつけ医）がお互いに積極的にアプローチし、情報の提供・共有に努め、信頼関係を構築すること

## 2 ケアマネジャーと診療所（かかりつけ医）との連携

### (1) かかりつけ医との面談

「医療と介護の連携に関する調査（ケアマネジャー調査）」において、連携ができていると回答したケアマネジャーの、診療所との連携の方法では、「事前に時間調整を行い、かかりつけ医を訪問して面談している」との回答が多く、できる限り面談して連携していることがわかります。また、「利用者や家族を通じて話を聞いている」場合も比較的多くなっていますが、「医療と介護の連携」を考えるこの場では、適切な連携の手法として捉えないこととしたいと思います。

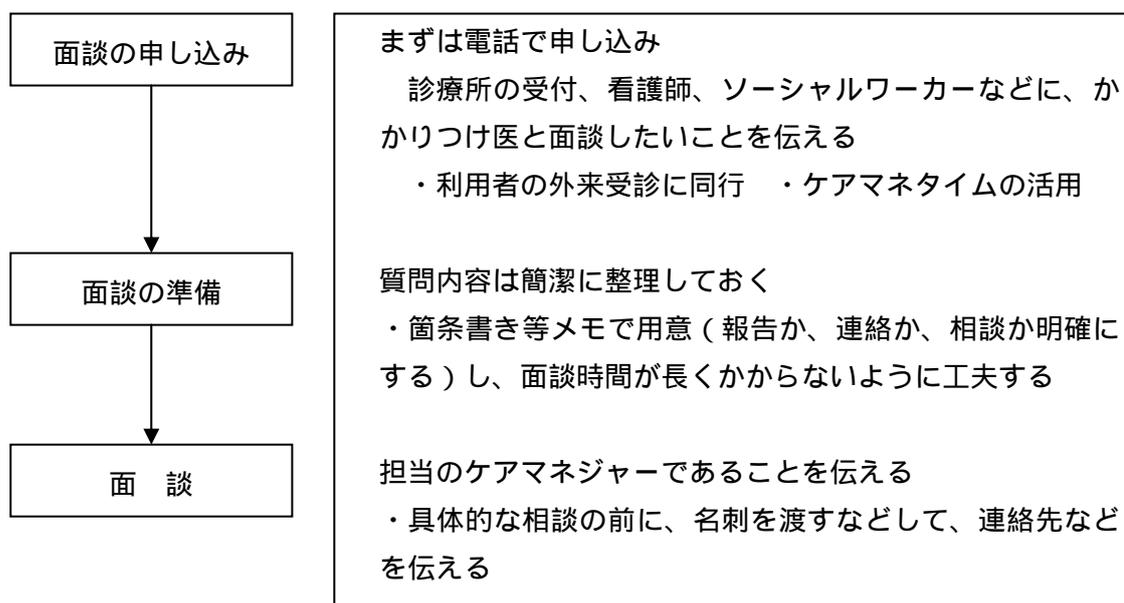
一方、診療所においては、「医療と介護の連携に関する調査（かかりつけ医に対する調査）」において、「通常は質問内容をFAX等でやり取りし、必要な場合に面談している」が最も多くなっていますが、「電話、FAX等で連絡を取り、面談はしない」も比較的多くなっています。（P21）また、介護保険を利用している患者の担当ケアマネジャーの把握状況では、「必要に応じて把握している」が最も多いものの、「ほとんど把握していない」、「全く把握していない」を併せると約3割が把握していないという状況となっており、一方で、かかりつけ医の意見として、「ケアマネジャーからのアプローチが少ない。担当ケアマネになったら必ず連絡してほしい。」「面識があると連携がとりやすいので、是非連絡をしてほしい。」といった意見があります。（P19、P31～32）

#### 重要事項

#### □ 連携は面談（顔見知りになること）が基本

お互いが多忙な中、面談には時間と手間、相手への気遣いなどが必要ですが、まずは、担当のケアマネジャーであることを知ってもらうことが重要であり、顔見知りになることで、以後の連携が円滑に進みます。

#### 【参考：面談までの流れ】



## 留意点

- 利用者の同意を得ておくこと
  - ・個人情報保護のため、本人の同意がない場合は情報提供することができないことがあります。(本人の同意を得ていることを伝える)
- 連絡先を伝えること
  - ・担当ケアマネジャーであることを証明できる書類等を携行し、名刺等を渡して連絡先を伝えることが必要です。
- 質問内容は簡潔に整理しておくこと
  - ・報告なのか、連絡なのか、相談なのか、面談の目的を明確にし、時間をかけないように工夫することが必要です。
- マナーを守ること
  - ・利用者の外来受診時に同行する場合でも、事前に連絡しておくこと
  - ・ケアマネタイムを設定している場合、その時間を見計らって連絡すること
- 診療所(かかりつけ医)は、担当ケアマネジャーの把握に努める必要があること
  - ・ケアマネジャーからの連絡を待つだけでなく、積極的にアプローチしていくことが必要です。

## (2) 面談を補完する連絡手段(FAX等)

「医療と介護の連携に関する調査」では、連携の方法として、「事前に調整し訪問して面談する」が多くなっていますが、「ほとんどの場合、質問内容を電話やFAX等でやり取りし、必要がある場合に面談している」も多くあります。(P21)

特に診療所では、「電話・FAX等で連絡を取り、面談はしない」が多く、また、「連絡はFAXを積極的に活用してほしい。」といった意見や「問題点や疑問点を簡潔にまとめてFAXしてもらえば、時間のあるときに返答できる。」といった意見もあり、連絡手段としてFAXが利用されていることがうかがわれます。(P31~32)

## 留意点

- 事前に面談していること(顔見知りになること)が前提であること
  - ・面談せずに済ませるための連絡手段ではないこと(医療機関は、面識のない者には情報提供できません。)
- FAXを送信する前には、事前に電話連絡で了解を得ておくこと
- 相談事項は、要点を整理し、簡潔にまとめること
- 診療所(かかりつけ医)は、FAXのみを連携手段とすることなく、できる限り面談の機会を設けるように努める必要があること

### (3) ケアマネタイム

「ケアマネタイム」は、市内では、小倉北区、小倉南区、若松区、八幡東区、八幡西区の医療機関で設定されています。

「医療と介護の連携に関する調査」では、ケアマネタイムを活用しているかについて、あまり活用されていないという結果でしたが、その理由として、「ケアマネタイムのことを知らなかった」、「ケアマネタイムを設定しているかかかりつけ医がわからない」、「詳細がわからない」など、ケアマネタイムの内容を知らないことが理由となっています。(P21~23)

一方、診療所(かかりつけ医)においては、「ケアマネタイムは必ず面談する」という一方で、「ケアマネタイムに関わらず面談する」も多くなっています。しかしながら、ケアマネジャーの今後の活用意向は、「大いに活用したい」、「どちらかという活用したい」を合わせると、9割近くとなっており、忙しい時間をケアマネジャーとの連携に当てるケアマネタイムは、医療機関に連絡することに抵抗があるケアマネジャーにとって、有用なものになると思います。(P23)

ケアマネタイムを設定している診療所等の情報提供をより積極的に行うことで、連絡が頻繁になることが期待されます。

#### 《ケアマネタイムの例》

	月	火	水	木	金	土	対応可能な時間	TEL/FAX	備考
医療機関名	×				×	×	10:00~12:00	TEL 582-2678	電話で事前予約してください。
(院長名)			×			×	14:00~17:00	FAX 582-2598	

#### 《ケアマネタイムの情報》

区 域	掲載先	備考(アドレス)
小倉北区	小倉北区・南区統括支援センター	一覧表を印刷して配布 小倉北区統括支援センター：TEL 562-3810 小倉南区統括支援センター：TEL 923-7002
小倉南区	協力：小倉医師会	
若松区	若松区医師会ホームページ	<a href="http://www.mmjp.or.jp/wakamatsu-med/cm/cm.htm">http://www.mmjp.or.jp/wakamatsu-med/cm/cm.htm</a>
八幡東区	八幡医師会ホームページ	<a href="http://www.yahata-med.or.jp/care_db/index.php">http://www.yahata-med.or.jp/care_db/index.php</a>
八幡西区		

### (4) サービス担当者会議

「医療と介護の連携に関する調査(ケアマネジャー調査)」では、「サービス担当者会議」への診療所(かかりつけ医)の参加要請を半数近くが行っていない結果となっています。

その理由として、「要請しにくい(敷居が高く感じる)」、「時間調整が困難なため」が多く、また、「要請しても断られる」との回答が比較的多くなっています。(P23~24)

一方、診療所(かかりつけ医)は、サービス担当者会議に参加要請があった場合、「ほとんど参加している」、「必要に応じて参加している」を合わせると約5割が参加していますが、「ほと

んど参加していない」、「全く参加していない」も4割を超えるなど、比較的多くなっています。

こうした多忙なかかりつけ医に対し、ケアマネジャーが参加要請することを躊躇していることがうかがわれます。(P24)

#### 留意点

- かかりつけ医等が参加しやすいよう、日時に余裕をもって開催案内をすること
  - ・関係者が全員参加することは難しいと思いますが、皆がスケジュールを確保しやすいように工夫をすることが必要です。
- 会議で何が話し合われるのか、会議での検討内容をかかりつけ医に伝えること
  - ・参加できない場合、必要な医療情報の提供を求めるなどの工夫をすることが必要です。
- 検討した結果は報告し、情報共有すること
  - ・検討した結果は簡潔に整理し、参加できなかったかかりつけ医等との情報共有に努めることが必要です。
- かかりつけ医等は、参加するように努めるとともに、参加できない場合でも、会議の検討に必要な情報の提供に努めること

### (5) ケアプラン

介護サービスは、「主治医意見書」等をもとに、要介護度が決定され、利用者のニーズ等をコーディネートして、ケアマネジャーがケアプランを作成します。医療と介護のスタッフが情報を共有することによって、より良いケアプランが作成され、実行されます。

こうして作成したケアプランは、共有する必要があると思いますが、「医療と介護の連携に関する調査(ケアマネジャー調査)」では、ケアプラン作成後、ケアマネジャーからかかりつけ医等への提供状況をみると、「必要に応じて提供している」が約4割と多いものの、「ほとんど提供していない」、「全く提供していない」も合わせると約3割と比較的によく、積極的な提供がなされていないことがうかがわれます。(P26~27)

#### 留意点

- 認定結果やケアプランは、利用者の同意を得て、かかりつけ医等に報告すること
  - ・主治医意見書をもとに決定した要介護度や作成されたケアプランを報告することは、かかりつけ医等との信頼関係の構築に不可欠です。
- ケアプランの変更なども速やかに報告すること
  - ・状況の変化は、できる限り速やかに報告するように心がけることが必要です。

### 3 ケアマネジャーと病院との連携

#### (1) 病院との連携

「医療と介護の連携に関する調査(病院調査)」では、病院はケアマネジャーとの連携が必要だと思えるケースについて、「概ね連携できている」との回答が約7割と多く、「ほとんど連携できていない」は約1割となっています。(P20)

一方、「連携が図れない。図りにくい」と思ったことがある病院は約6割となっており、その理由として、「ケアマネジャーが誰かわからないことがある」が多くなっています。(P28~29)

#### 重要事項

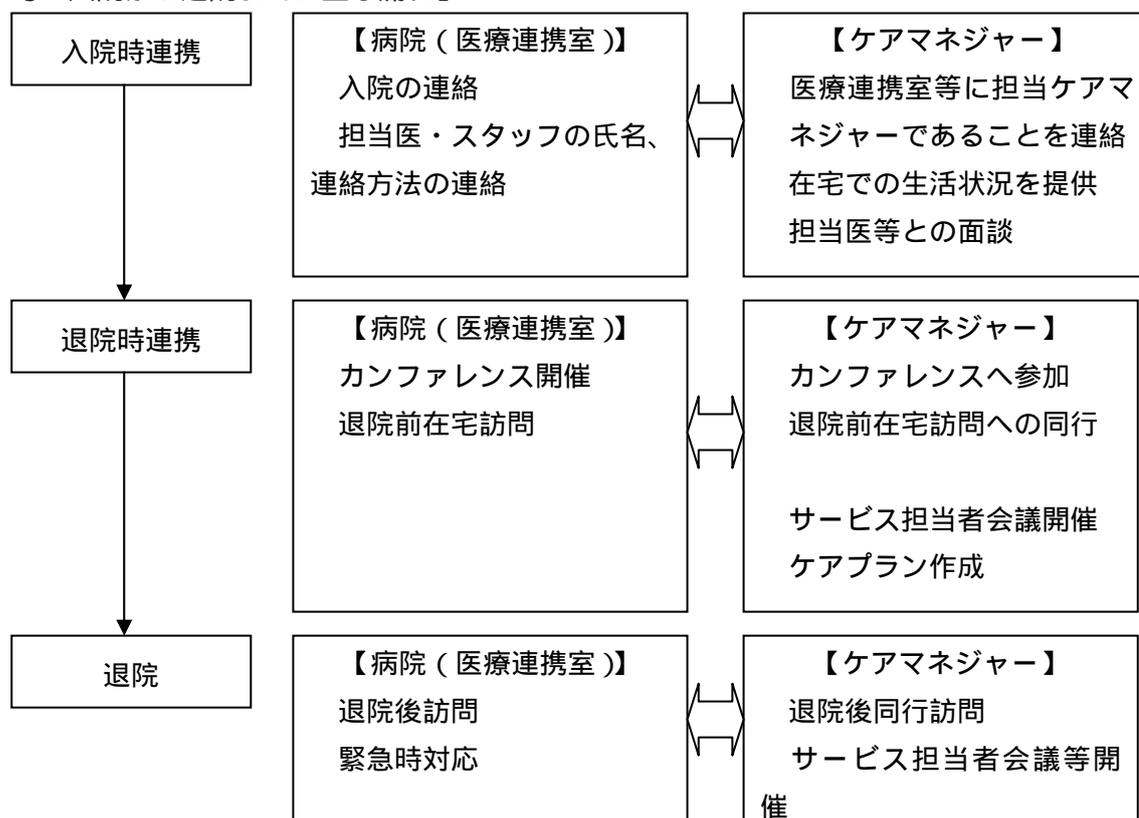
##### □ 医療連携室等に担当のケアマネジャーであることを知ってもらうこと

医療連携室(地域連携室)等に、担当のケアマネジャーであることや連絡先などを伝え、担当医等との面談方法を確認するなど、病院との連携には、医療連携室等を窓口として活用することが有効です。

#### 《医療連携室(地域連携室)》

医療連携の重要性が認識されるようになり、多くの病院で「医療連携室」等が整備されてきています。医療連携室では、ソーシャルワーカー等が医療機関やケアマネジャーとの連携を担い、関係機関、職種との積極的な情報共有のため、カンファレンス等担当者会議を開催して連携を図っている病院も多くなっています。

#### 【参考：入院から退院までの主な流れ】



## (2) 入院時連携

「医療と介護の連携に関する調査(病院調査)」において、介護保険の認定を受けている患者が入院した場合に病院からケアマネジャーに連絡しているかについては、「連絡している」と回答した病院が約7割となっていますが、「患者家族から連絡してもらおう」も比較的多くなっており、病院からの連絡があまり積極的にされていない状況もうかがわれます。(P20)

一方、ケアマネジャーの多くが、利用者が入院した時の在宅での生活状況やケアプランなどの情報提供について、「病院からの要請に関わらず提供している」、「病院からの要請があった場合に提供している」とし、提供の方法としては、面談が最も多いものの、電話やFAXでの提供が比較的多くなっています。(平成21年度の介護報酬改定で、「医療連携加算」が算定できることになったことも影響していることが考えられます。)(P26~27)

### 留意点

- 医療連携室等を連携の窓口として連絡をとること
  - ・医療連携室等のソーシャルワーカー等を窓口として連携を図り、担当医との面談の手順等を確認することが必要です。
- 一方的な情報の提供は避けること
  - ・病院(担当医等)が知りたい情報は、利用者に応じて異なります。まずは、医療連携室等と電話等で連絡を取り、必要な情報を提供することが必要です。
- 病院は、担当のケアマネジャーがわかれば入院等の連絡を行うこと
  - ・患者家族の了解を得て連絡し、緊急時等に備え、ケアマネジャーの連絡先等を把握しておく必要があります。
  - ・その際、担当医等との面談方法等を説明することも必要です。

《参考》 「医療連携加算」(平成21年度改定)

150単位/月(利用者1人につき1回を限度)

算定要件:病院又は診療所に入院する利用者につき、当該病院又は診療所の職員に対して、利用者に関する必要な情報を提供した場合

## (3) 退院時連携

病院内で行われるカンファレンスへの担当ケアマネジャーの参加要請は、約6割の病院が必要に応じて要請しています。要請の時期については、利用者の退院前が多くなっており、在宅生活への移行に向けて、参加を要請していることがわかります。(P24~25)

一方、ケアマネジャーは、参加要請があれば、ほとんど参加している状況となっています。(平成21年度の介護報酬改定で、「退院・退所加算」が算定できることになったことも影響していることが考えられます。)

また、病院スタッフが行う退院前在宅訪問には、ケアマネジャーは要請があればほとんどが参加しています。

## 留意点

- 医療連携室等と十分な連携を図り、カンファレンスや退院前訪問には、可能な限り参加して情報を共有すること
  - ・病院は、担当医、看護師、ソーシャルワーカー、リハビリテーションスタッフ等多職種が参加して、生活機能の評価を行います。在宅生活を支援する立場から、情報提供・共有を行うことが必要です。
- 協議の内容はケアプランに反映させること
  - ・利用者、家族のニーズ、担当医等関係機関、職種の意見をコーディネートして、利用者の生活にあったプランを作成することが必要です。
- 病院は、退院前カンファレンス、退院前在宅訪問にできる限りケアマネジャーの参加を求めること
  - ・利用者の生活機能に応じたケアプラン作成のため、情報を共有することが必要です。

《参考》 「退院・退所加算」(平成 21 年度改定)

退院・退所加算 ( ) 400 単位 / 月 (入院等の期間が 30 日以下)

退院・退所加算 ( ) 600 単位 / 月 (入院等の期間が 30 日超)

算定要件：退院又は退所に当たって、病院等の職員との面談を行い、利用者に関する必要な情報の提供を求めることその他の連携を行った場合

## 4 連携シートについて

病院や診療所等との連絡手段として開発されている「連携シート」は、整理した情報を提供することが可能となるなど、情報の標準化には有効な手段であると思われます。

しかし、決してケアマネジャーとかかりつけ医等が顔を合わせずに済ませるものとなってしまうのではないと思います。

まずは、病院や診療所(かかりつけ医)等とケアマネジャーが顔見知りになり、お互いに情報交換できるようになることが必要であり、効率的・効果的に面談を行うため、また、面談での連携を補う方法として、FAX等でやり取りすることが必要です。そのために、簡潔で、正確な情報を提供するための「連携シート」の開発は必要だと考えます。

## 重要事項

### □ 連携シートは面談での連携を補うものであること

連携シートは限られた紙面の中で、情報を整理して提供するには有効な手段ですが、連携の基本は面談であり、面談を補うものとして活用することが必要です。

医療と介護の連携（連絡票 例）

FAX番号： 000 - 0000

連絡票（医療機関とケアマネジャーの連携）

個人情報の漏洩を防止  
するため、番号を間違  
わないように注意

\* 発信日 平成 年 月 日

* あて先	医療機関名	* 発信元	介護事業所名
	医師名		電話番号 FAX番号 ケアマネジャー氏名

日頃より大変お世話になっています。下記の利用者のことについて、先生とご連絡を取りたいと考えています。お忙しいところ誠に恐れいりますが、ご都合の良い日時等について、ご連絡くださいますようお願い致します。

\* なお、先生とお話することについて、本人（家族）に同意を得ています。

* 利用者	氏名	男・女	介護度 要支援1, 要支援2, 要介護(1, 2, 3, 4, 5)
	生年月日		
連絡内容	利用者の状況についての報告 ケアプラン作成にあたって、病状などの相談 その他（		連絡の目的を明確にする
* 《利用者の生活状況》			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>			
* 利用者の相談内容			
<p>簡潔にわかりやすく記入する</p> <p>(1)</p> <p>(2)</p> <p>(3)</p>			

主治医からの回答内容（下記にご記入の上、FAXにて返信してください。）

連絡方法	直接会って話をします（面談の時間 月 日 時頃）
	電話で話をします（連絡の時間 月 日 時頃 電話してください）
	文書で回答します（下記のとおりです）
主治医からの回答内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>	
記入日（ 月 日）	

## 5 まとめ

利用者の安心・安全な在宅生活を支援するためには、関係するあらゆる機関・職種が連携することが重要です。

連携はお互いの顔を合わせて面談することが基本です。お互いに多忙な中、面談の時間を確保するために「ケアマネタイム」を設定し、情報の整理・標準化を図るために「連携シート」を作成して、FAX等でやり取りするなど、さまざまな工夫がなされています。

これらの手法をうまく活用していくことは、効率的・効果的な連携には重要だと思いますが、決して、面談しなくて済むということではないことを認識しておく必要があると思います。

「医療と介護の連携に関する調査」においては、ケアマネジャーが、「医療機関に連絡することへの抵抗（医療は敷居が高い）」を感じており、特に基礎となる資格によって、差があることがわかりました。

医療と介護の連携を図るためには、こうした連携の意識を改善するなど、ケアマネジャーのスキルアップを図っていくとともに、病院や診療所からも積極的にケアマネジャーにアプローチしていき、必要な情報を得ていく必要があると思います。

また、在宅サービスはチームアプローチといわれています。多職種が意見交換を行い、情報を共有することで、利用者により良いサービスが提供できます。

病院・診療所等をはじめとする医療スタッフと、ケアマネジャーをはじめとする在宅生活を支援するスタッフが、同じ目的をもったパートナーとして連携し、利用者のニーズにあったサービスが提供できるよう努めることが必要です。

### 【連携の心得】

- ① お互いが「顔の見える関係」になること  
医師への敷居の高さを意識せず、まずは連絡をとること
- ② お互いが、積極的にアプローチしていくこと  
同じ目的をもったパートナーとして、医療機関、ケアマネジャー  
一双方から、積極的に情報提供・共有に努めること
- ③ マナーを守ること  
連携方法が決まっても、面談の留意点などを踏まえ、丁寧  
な対応に心がけること

**ケアマネジャーと病院・診療所（かかりつけ医）との面談のための  
チェックシート（例）**

	<b>ケアマネジャー</b>	<b>病院（医療連携室）・診療所</b>
<b>【面談までの準備】</b>	<p>利用者・家族の同意を得ましょう。 医療連携室を活用しましょう。 面談の目的、内容を整理しましょう。 面談の申し込みをしましょう。</p> <p>受付あるいは医療連携室で面談の意思を伝え、面談の方法を確認しましょう。</p> <p>利用者の外来受診に同行する場合でも事前に了解を得ましょう。</p> <p>ケアマネタイムを設定している場合、その時間に連絡するようにしましょう。</p> <p>電話番号など連絡先を伝えましょう。</p> <p>利用者の生活状況を簡潔に整理しておきましょう。</p>	<p>ケアマネジャーから連絡がない場合でも、患者家族に聞くなどして、担当のケアマネジャーを把握しましょう。</p> <p>ケアマネジャーから面談の申し込みがあったら、面談の方法を説明しましょう。</p> <p>連絡先を確認しておきましょう。</p> <p><b>必要な情報を整理しましょう。</b></p> <p>利用者の生活状況など、聞きたいことを整理しておきましょう。</p> <p>（できれば事前に聞きたい情報を知らせておけば、面談がスムーズに行きます。）</p>
<b>【面談】</b>	<p>面談の時間と場所を守りましょう。</p> <p>担当のケアマネジャーであることを伝えましょう。</p> <p>名刺、ケアマネジャーであることの証明などを持参しましょう。</p> <p>面談の目的を明確にし、簡潔に説明しましょう。</p> <p>事前に整理した内容に沿って話しを進めましょう。（時間をかけないように）</p> <p>面談の結果を簡潔に整理しましょう。</p> <p>FAXを利用する場合は事前に電話連絡してから送信しましょう。</p>	<p>担当のケアマネジャーであることを確認しましょう。</p> <p>連絡先等を名刺等で確認しましょう。</p> <p>わかりやすく説明するように心がけましょう。</p> <p>多忙な場合でも、FAXだけで済ませることがないように、できる限り面談の機会を設けるようにしましょう。</p>
<b>【その他】</b>	<p><b>【サービス担当者会議・カンファレンス等】</b></p> <p>かかりつけ医等への参加要請は、時間に余裕をもって行いましょう。</p> <p>事前に検討内容を伝えましょう。</p> <p><b>【情報共有】</b></p> <p>入退院の際は、病院（医療連携室等）と連絡をとり、情報を共有しましょう。</p> <p>介護度や作成したケアプランは、かかりつけ医等に報告しましょう。</p>	<p><b>【サービス担当者会議・カンファレンス等】</b></p> <p>できる限り参加し、参加できない場合でも情報提供しましょう。</p> <p><b>【情報共有】</b></p> <p>入退院の際はケアマネジャーと連絡をとり、情報を共有しましょう。</p> <p>入院の際は、担当のケアマネジャーに、連絡し、連絡先を確認しておきましょう。</p>

## 医療と介護の連携に関する調査

### 1 調査概要

#### (1) 調査対象

市内医療機関（病院：82 施設、診療所：312 施設）

ケアマネジャー（平成 21 年度ケアマネジメント研修参加者）

#### (2) 調査実施期間 平成 21 年 9 月～12 月

#### (3) 調査票 別紙のとおり

#### (4) 調査の方法

医療機関：郵送

ケアマネジャー：研修会場で配布、FAX で回収

#### (5) 回収数

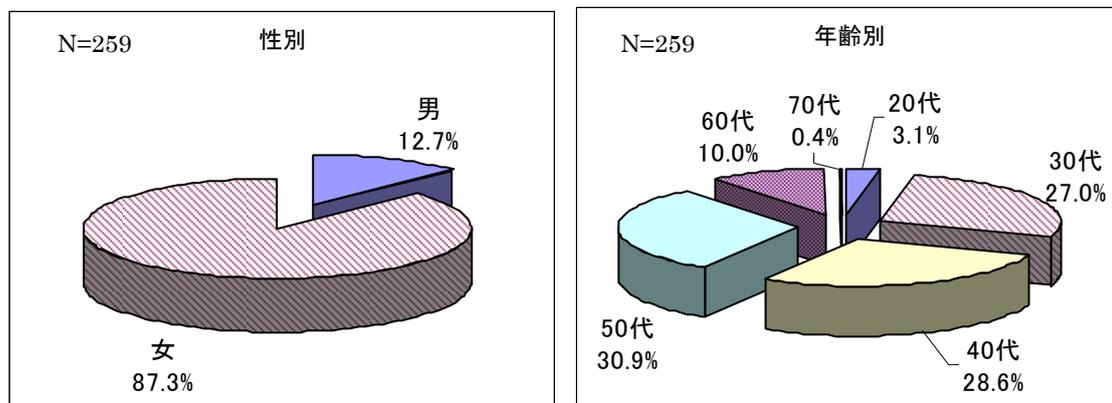
医療機関：病院（71 施設、回収率 86.6%）、診療所（218 施設、回収率 69.9%）

ケアマネジャー：259 名

#### (6) 回答があったケアマネジャー（259 名）について

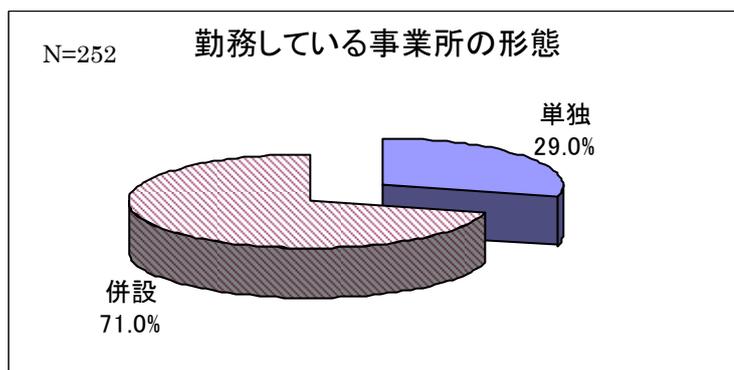
性別・年齢

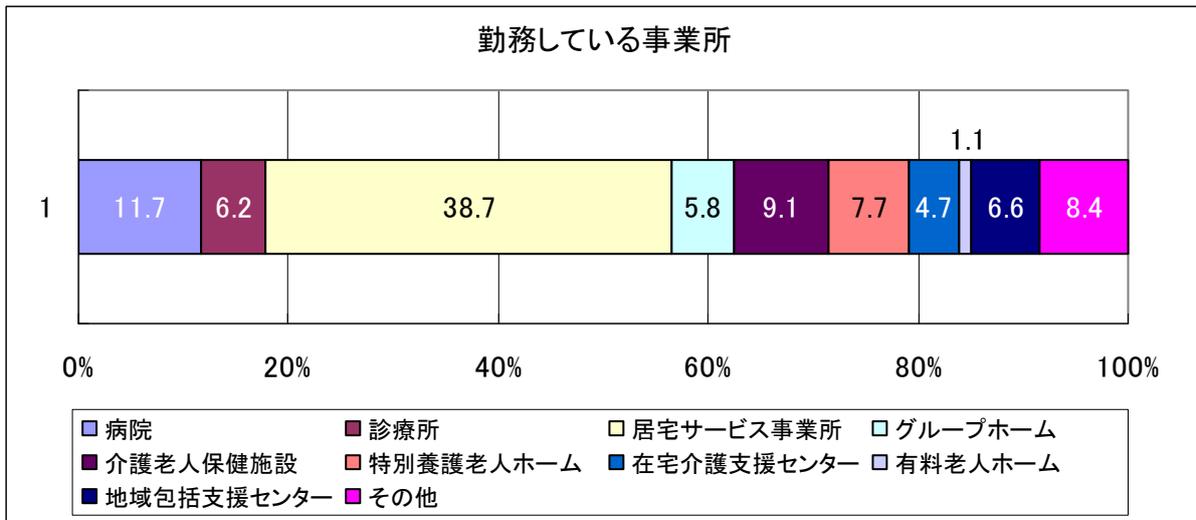
男性が 12.7% に対し、女性が 87.3% と約 9 割が女性となっている。年齢構成は 50 代が 30.9% と最も多く、次いで 40 代が 28.6%、30 代が 27.0% となっている。



#### 勤務している事業所の形態

現在勤務している事業所の形態としては、併設が 71.0% と多く、事業所の種類としては、居宅サービス事業所が 38.7% と多くなっている。

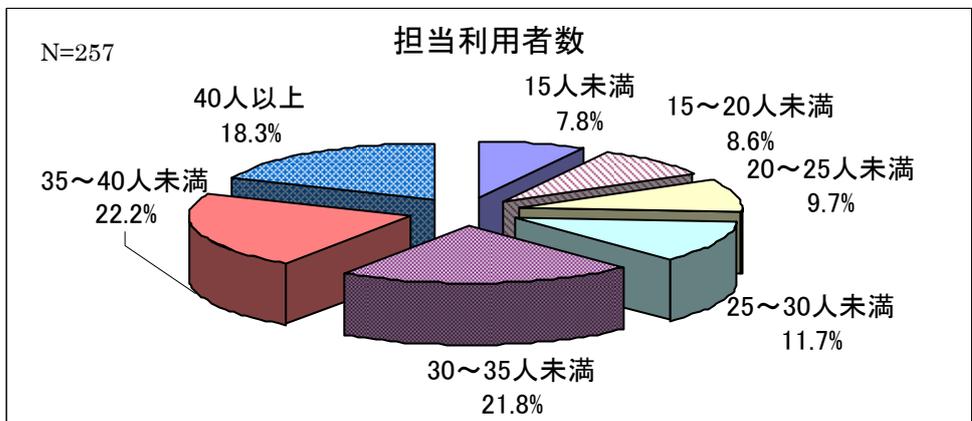
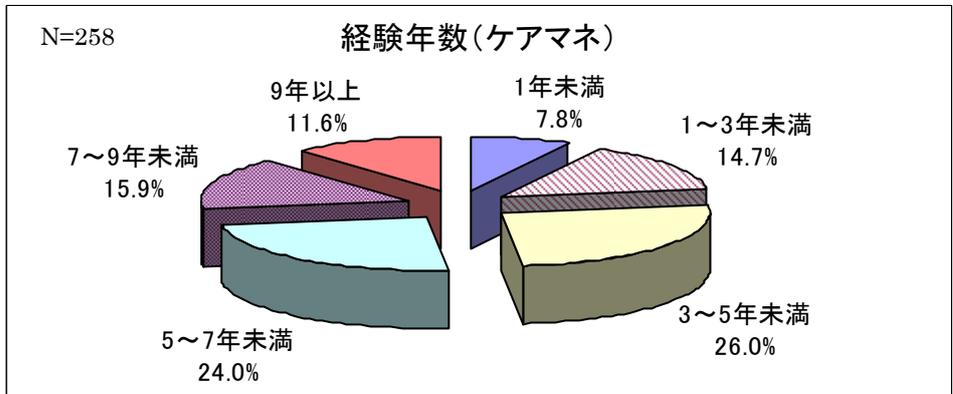




#### ケアマネジャーの経験年数

ケアマネジャーの経験年数は、全体の平均で4.8年となっており、「3年から5年未満」が26.0%、次いで「5年から7年未満」が24.0%、「7年から9年未満」が15.9%となっている。

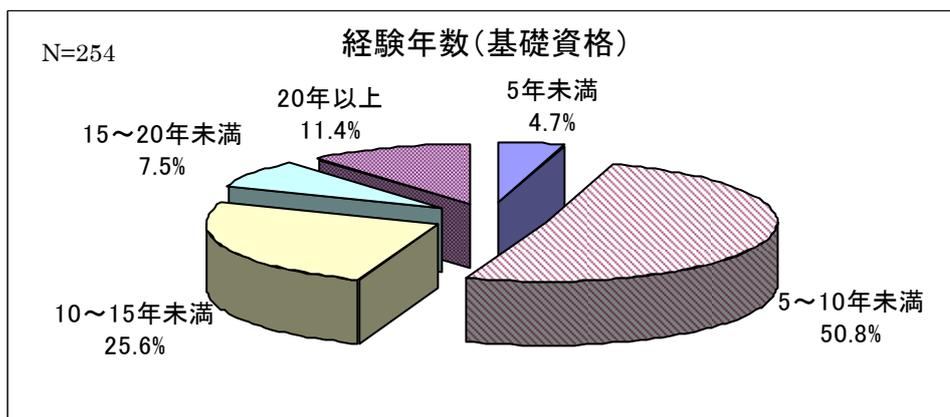
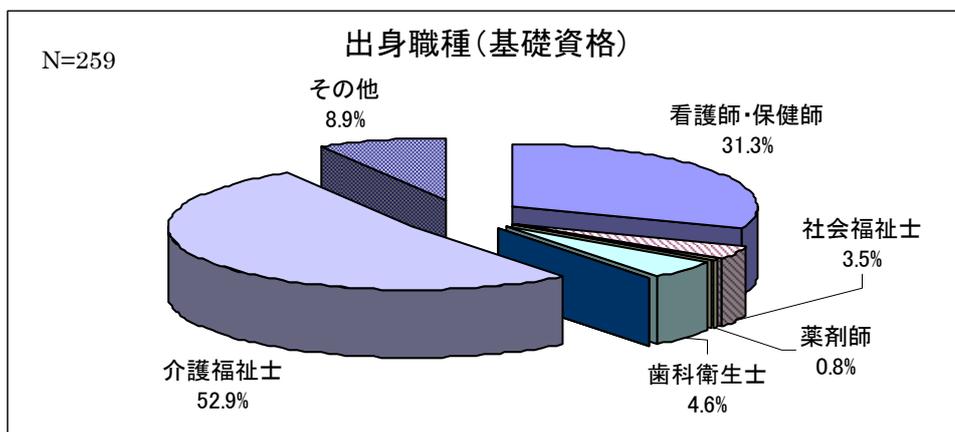
また、担当している利用者の人数は「35人から40人未満」が22.2%、「30人から35人未満」が21.8%となっている。



## 基礎資格

ケアマネジャーになる前の基礎資格は、介護福祉士が 52.9%と最も多く、次いで、看護師・保健師が 31.3%となっている

また、基礎資格の経験年数は、全体平均で 10.6 年。「5年から 10年未満」が 50.8%と多くっており、基礎資格別では、看護師・保健師が平均で 15.8 年と長く、介護福祉士は 7.6 年となっている。



### 【基礎資格別経験年数】

基礎資格	基礎資格の経験年数(平均)		ケアマネジャーの経験年数(平均)	
	人数	平均年数	人数	平均年数
全体	254人	10.6年	258人	4.8年
看護師・保健師	76人	15.8年	81人	6.4年
社会福祉士	9人	7.8年	9人	4.8年
薬剤師	2人	27年	2人	9年
歯科衛生士	12人	10.5年	12人	4.1年
介護福祉士	125人	7.6年	132人	4.0年
その他	20人	9.4年	22人	4.2年

## 2 調査結果

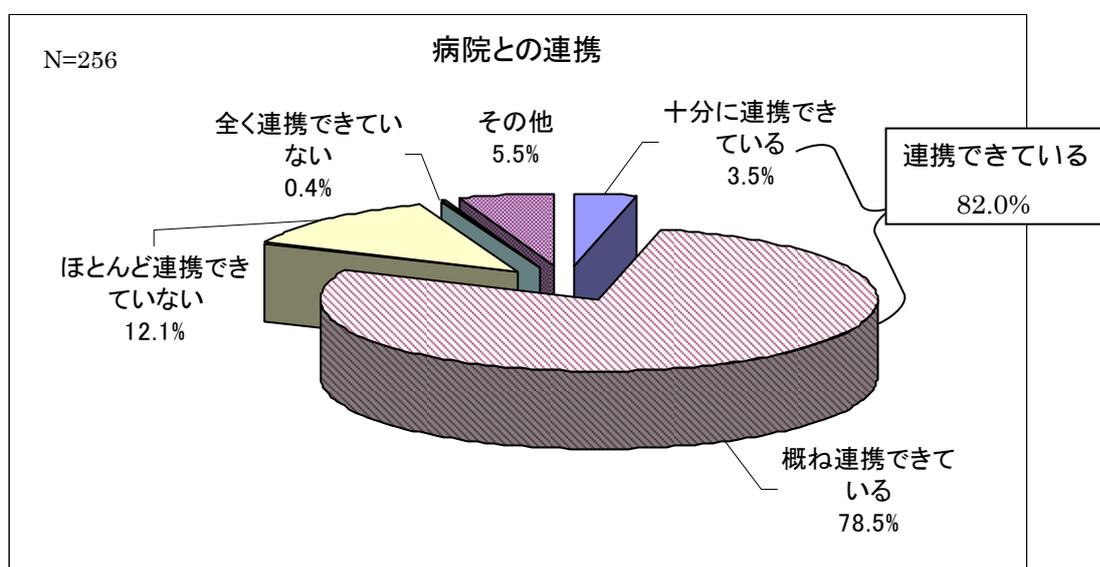
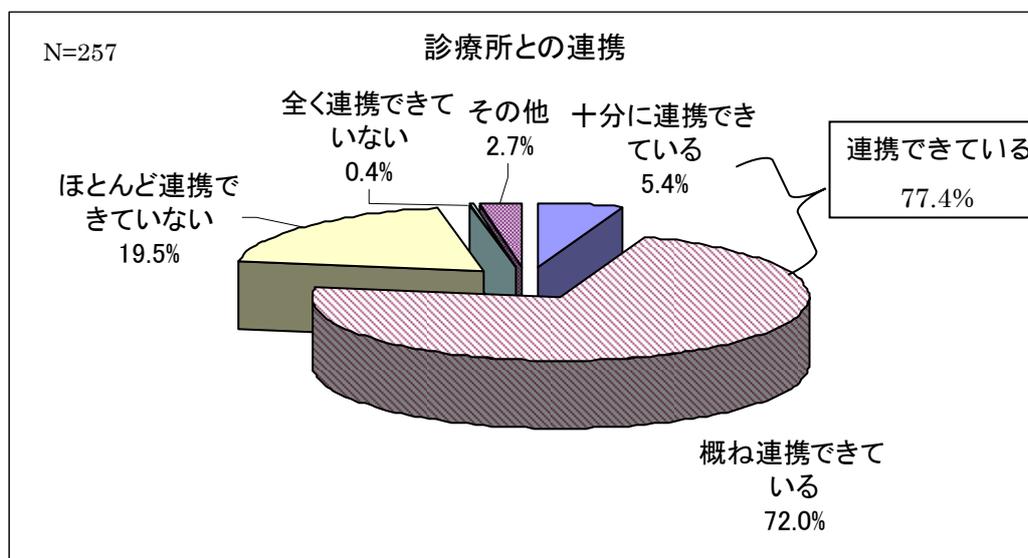
### (1) 連携について

#### (ア) ケアマネジャーに対する調査

診療所との連携について、連携が必要だと思うケースでは、「概ね連携できている」が72.0%と最も多く、「十分に連携できている」の5.4%をあわせると77.4%が「連携できている」と回答している。また、病院との連携については、「概ね連携できている」が78.5%と最も多く、「十分に連携できている」の3.5%をあわせると82.0%が「連携できている」と回答しており、概ね連携ができていると感じている。

基礎資格別にみると、看護師・保健師では、診療所と「連携できている（十分と概ねを合わせた数）」が87.6%であるのに対し、介護福祉士では72.5%となっており、基礎資格によって、連携に差がでていることがうかがわれる。病院との連携も同様のことがうかがわれる。

また、ケアマネジャーの経験年数別にみると、経験年数が長くなると、ほぼ「連携できている」割合が高くなっている。



【基礎資格別（診療所との連携）】

基礎資格	回答数	十分連携 できている	概ね連携 できている	ほとんど 連携でき ていない	全く連携 できてい ない	その他
全体	257人	14	185	50	1	7
	100%	5.4%	72.0%	19.5%	0.4%	2.7%
看護師・保健師	81人	7	64	8	0	2
	100%	8.6%	79.0%	9.9%	0.0%	2.5%
社会福祉士	9人	0	5	4	0	0
	100%	0.0%	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%
薬剤師	1人	0	1	0	0	0
	100%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
歯科衛生士	12人	1	9	2	0	0
	100%	8.3%	75.0%	16.7%	0.0%	0.0%
介護福祉士	131人	6	89	31	1	4
	100%	4.6%	67.9%	23.7%	0.8%	3.1%
その他	23人	0	17	5	0	1
	100%	0.0%	73.9%	21.7%	0.0%	4.3%

【基礎資格別（病院との連携）】

基礎資格	回答数	十分連携 できている	概ね連携 できている	ほとんど 連携でき ていない	全く連携 できてい ない	その他
全体	256人	9	201	31	1	14
	100%	3.5%	78.5%	12.1%	0.4%	5.5%
看護師・保健師	81人	2	67	7	0	5
	100%	2.5%	82.7%	8.6%	0.0%	6.2%
社会福祉士	9人	0	8	0	0	1
	100%	0.0%	88.9%	0.0%	0.0%	11.1%
薬剤師	2人	0	2	0	0	0
	100%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
歯科衛生士	12人	3	7	2	0	0
	100%	25.0%	58.3%	16.7%	0.0%	0.0%
介護福祉士	130人	2	100	20	0	8
	100%	1.6%	78.7%	15.7%	0.0%	5.5%
その他	22人	2	17	2	1	0
	100%	8.7%	73.9%	8.7%	4.3%	0.0%

【経験年数別（診療所との連携）】

基礎資格	回答数	十分連携 できている	概ね連携 できている	ほとんど 連携でき ていない	全く連携 できてい ない	その他
全体	257人	14	185	50	1	7
	100%	5.4%	72.0%	19.5%	0.4%	2.7%
5年未満	125人	6	88	27	1	3
	100%	4.8%	70.4%	21.6%	0.8%	2.4%
3年未満	59人	2	38	18	0	1
	100%	3.4%	64.4%	30.5%	0.0%	1.7%
3～5年 未満	66人	4	50	9	1	2
	100%	6.1%	75.8%	13.6%	1.5%	3.0%
5年以上	132人	8	97	23	0	4
	100%	6.1%	73.5%	17.4%	0.0%	3.0%
5～7年 未満	61人	2	44	14	0	1
	100%	3.3%	72.1%	23.0%	0.0%	1.6%
7年以上	71人	6	53	9	0	3
	100%	8.5%	74.6%	12.7%	0.0%	4.2%

【経験年数別（病院との連携）】

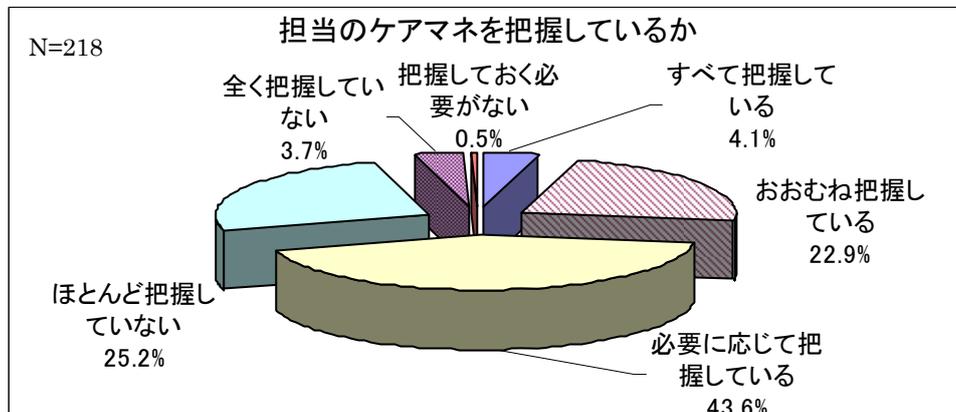
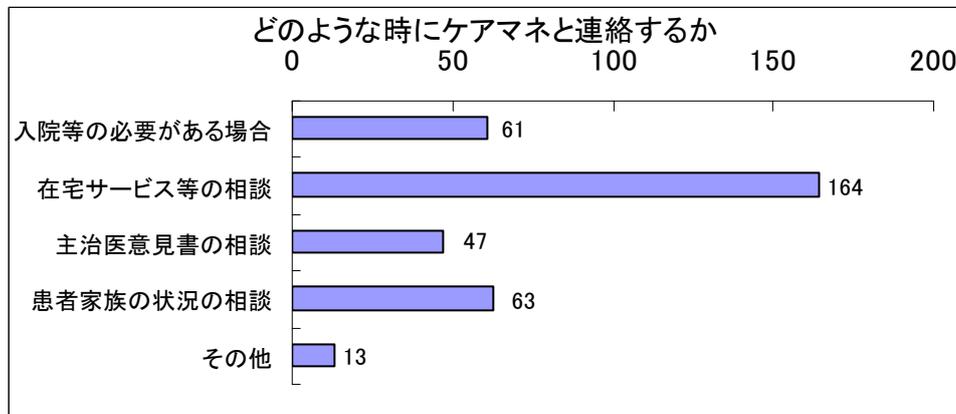
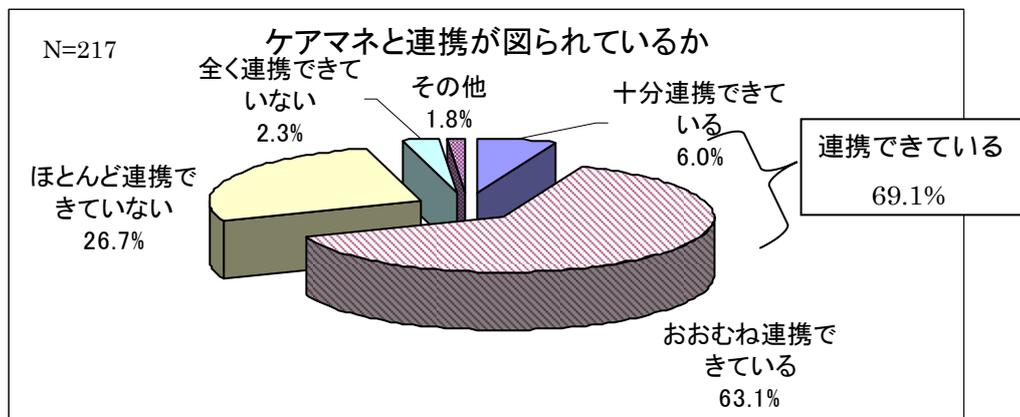
基礎資格	回答数	十分連携 できている	概ね連携 できている	ほとんど 連携でき ていない	全く連携 できてい ない	その他
全体	256人	9	201	31	1	14
	100%	3.5%	78.5%	12.1%	0.4%	5.5%
5年未満	123人	4	96	15	1	7
	100%	3.3%	78.0%	12.2%	0.8%	5.7%
3年未満	57人	2	40	10	1	4
	100%	3.5%	70.2%	17.5%	1.8%	7.0%
3～5年 未満	66人	2	56	5	0	3
	100%	3.0%	84.8%	7.6%	0.0%	4.5%
5年以上	134人	5	105	17	0	7
	100%	3.7%	78.4%	12.7%	0.0%	5.2%
5～7年 未満	62人	3	48	9	0	2
	100%	4.8%	77.4%	14.5%	0.0%	3.2%
7年以上	72人	2	57	8	0	5
	100%	2.8%	79.2%	11.1%	0.0%	6.9%

(イ) 診療所（かかりつけ医）に対する調査

一方、診療所に対する調査では、ケアマネジャーとの連携が必要だと思うケースでは、「おおむね連携できている」が63.1%、「十分連携できている」の6.0%を合わせると69.1%となっている。

また、どのような時に、ケアマネジャーと連絡をとるかについては、「患者の状態の変化により、在宅サービス等の利用について相談したい場合」が最も多くなっている。

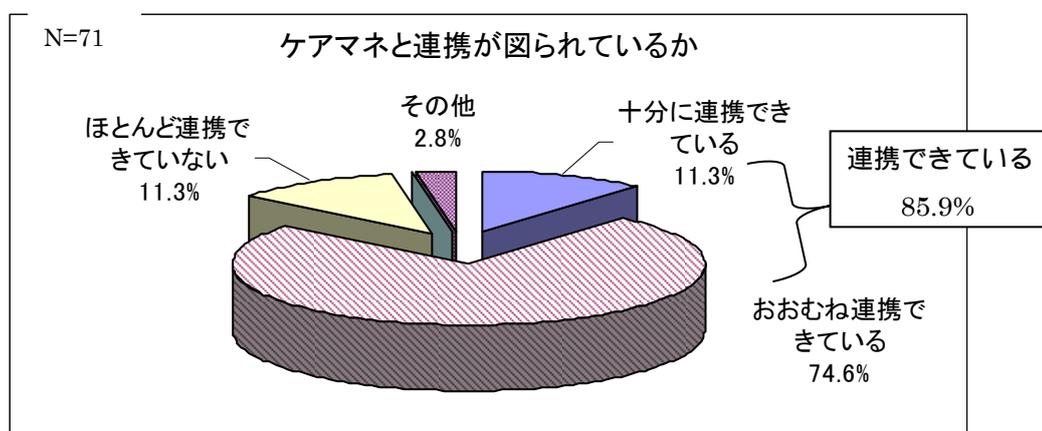
一方、介護保険を利用している患者の担当ケアマネジャーの把握状況を見ると、「必要に応じて把握している」43.6%と最も多く、「すべて把握している」が4.1%、「おおむね把握している」が22.9%となっている。一方、「ほとんど把握していない」が25.2%となっており、ケアマネジャーの情報をかかりつけ医が把握していないことがうかがわれる。



(ウ) 病院に対する調査

病院に対する調査では、ケアマネジャーとの連携が必要だと思うケースでは、「おおむね連携できている」が 74.6%と最も多く、「十分連携できている」の 11.3%を合わせると 85.9%が「連携できている」と回答している。

また、介護保険を受けている患者が入院した場合、ケアマネジャーへの入院連絡について、「必要に応じて、連絡している」が最も多く、「ほとんどの場合、連絡している」をあわせると約7割が連絡していると回答している。しかしながら、「患者家族から連絡してもらう」も比較的多くなっている。



【ケアマネジャーへの入院の連絡】

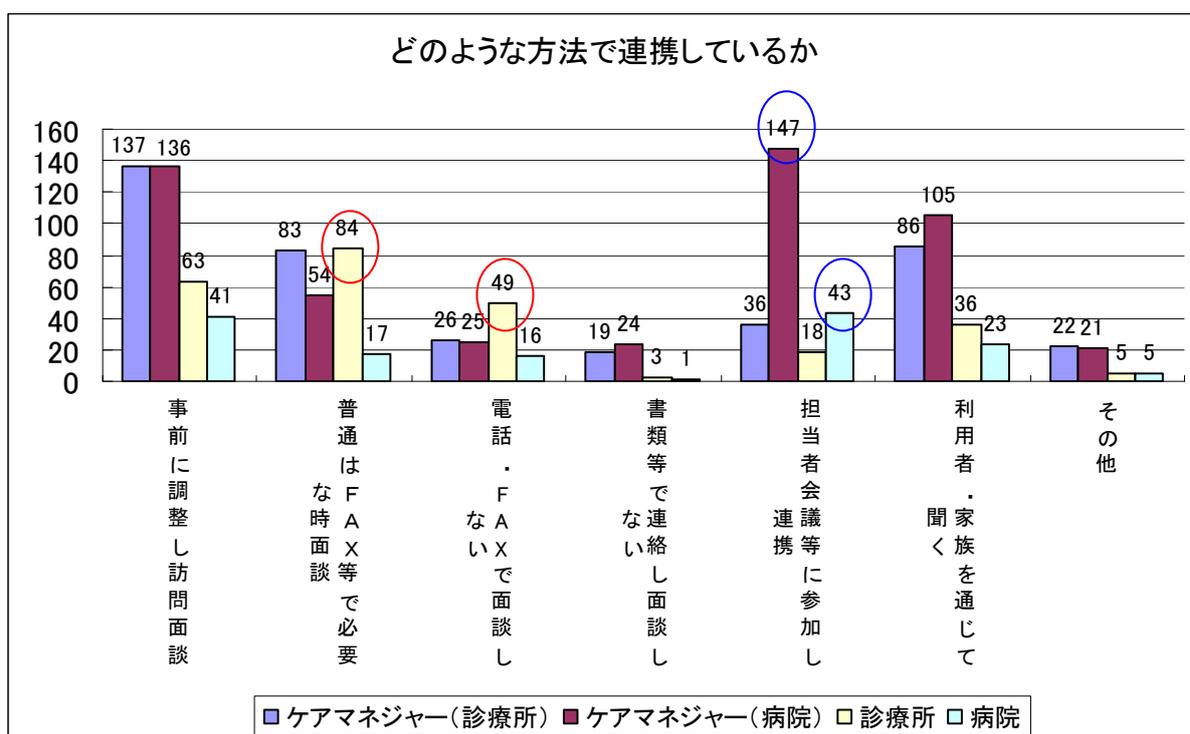
	重複回答除く	重複回答含む
病院数 (割合)	71 (100%)	71 (100%)
ほとんどの場合、連絡している	9 (12.7%)	9 (12.7%)
必要に応じて、連絡している	40 (56.3%)	40 (56.3%)
患者家族から連絡してもらう	15 (21.1%)	33 (46.5%)
連絡することはない	4 (5.6%)	4 (5.6%)
その他	3 (4.2%)	3 (4.2%)

## (2) 連携の方法

ケアマネジャーでは、「事前に時間調整を行い、訪問して面談している」が多くなっているが、「利用者・家族を通じて話しを聞いている」も比較的多くなっている。

中でも、診療所は、「通常は質問内容をFAX等でやり取りし、必要がある場合に面談している」が最も多くなっており、「電話・FAX等で連絡を取り、面談はしない」も比較的多いことから、主な連携手段が電話やFAXであることがうかがわれる。

また、病院については、「カンファレンス等に参加して連携をとっている」が最も多くなっている。このことは、ケアマネジャーの病院との連携手法でも多くなっていることから、病院との連携手法で、カンファレンス等担当者会議が多く行われていることがうかがわれる。

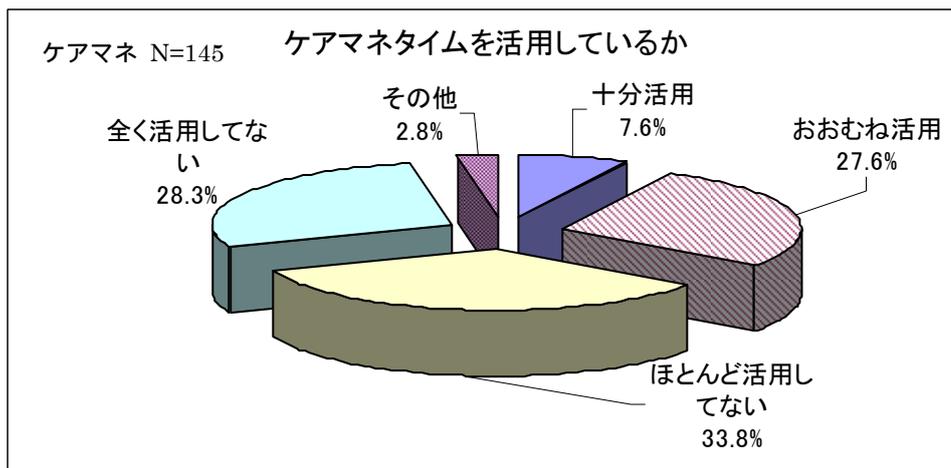


## ア 「ケアマネタイム」について

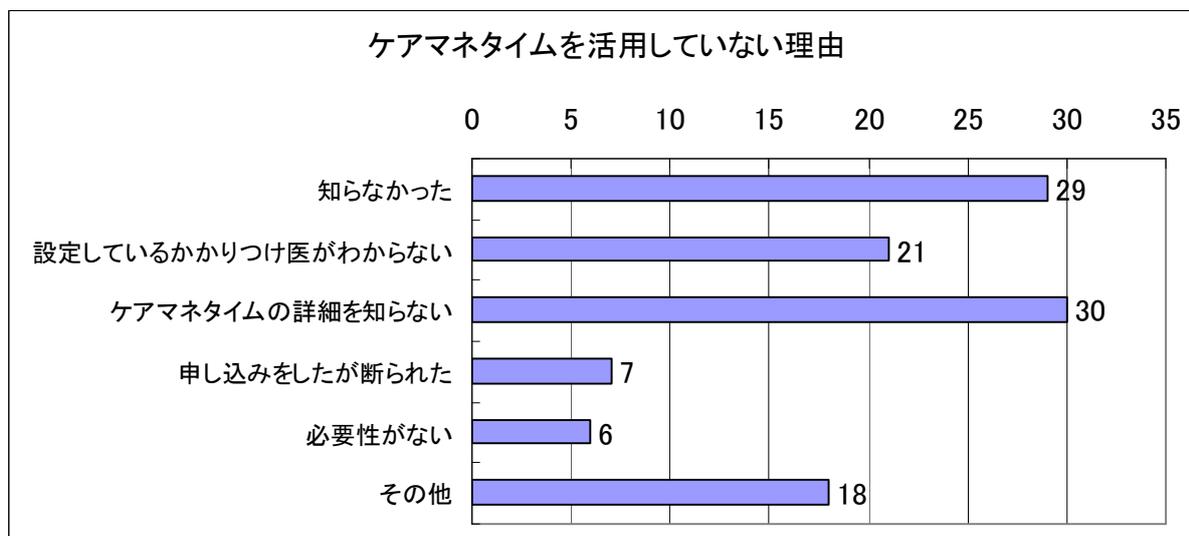
「ケアマネタイム」については、各区によって取り組みが異なるため、ここでは、ケアマネタイムを設定している区(小倉南区、若松区、八幡東区、八幡西区)の4区を対象にまとめた。

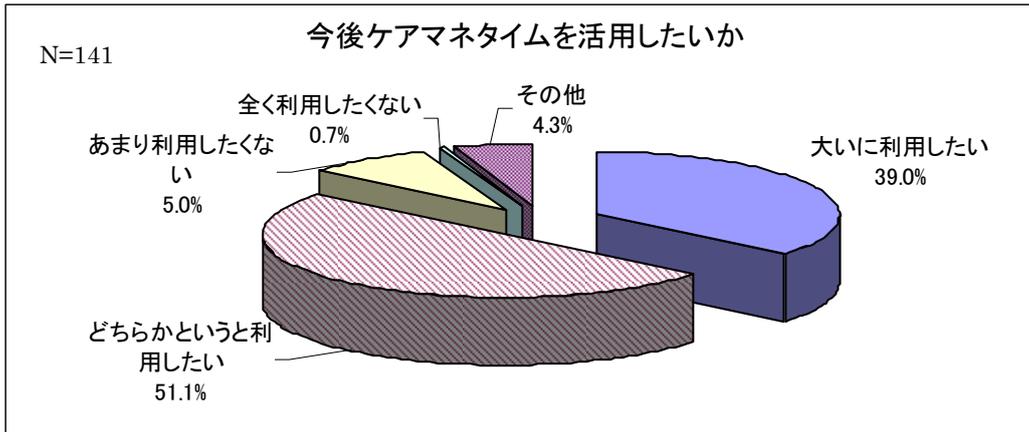
ケアマネタイムを活用しているかについては、「ほとんど活用していない」が33.8%と最も多く、次いで「全く活用していない」28.3%となっており、「活用していない」が6割を超えている。しかしながら、行政区別にみると、若松区では「おおむね活用」と「十分活用」を合わせた「活用している」が8割を超えており、行政区によって差がでている。

「ケアマネタイム」を活用していない理由として多いのが、「ケアマネタイムのことを知らなかった」、「ケアマネタイムを設定しているかかりつけ医がわからない」、「詳細がわからない」などとなっている。また、今後の活用意向については、「大いに活用したい」、「どちらかという活用したい」を合わせると、約9割となっていることから、「ケアマネタイム」の詳細について、情報提供することによって、活用が促進されると思われる。

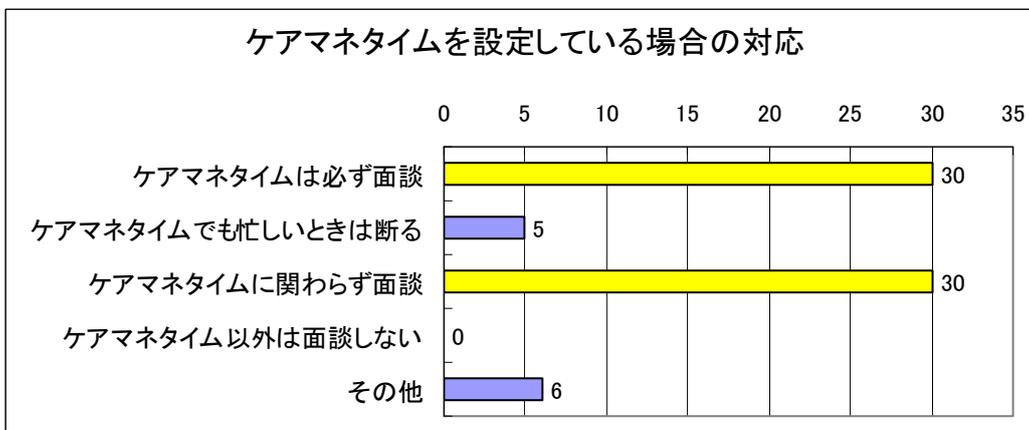


	十分活用	おおむね活用	ほとんど活用してない	全活用してない	その他	計
全体	11	40	49	41	4	145
	7.6%	27.6%	33.8%	28.3%	2.8%	100.0%
小倉南区	1	13	16	14	1	45
	2.2%	28.9%	35.6%	31.1%	2.2%	100.0%
若松区	6	12	3	1	0	22
	27.3%	54.5%	13.6%	4.5%	0.0%	100.0%
八幡東区	2	7	13	6	0	28
	7.1%	25.0%	46.4%	21.4%	0.0%	100.0%
八幡西区	2	8	17	20	3	50
	4.0%	16.0%	34.0%	40.0%	6.0%	100.0%





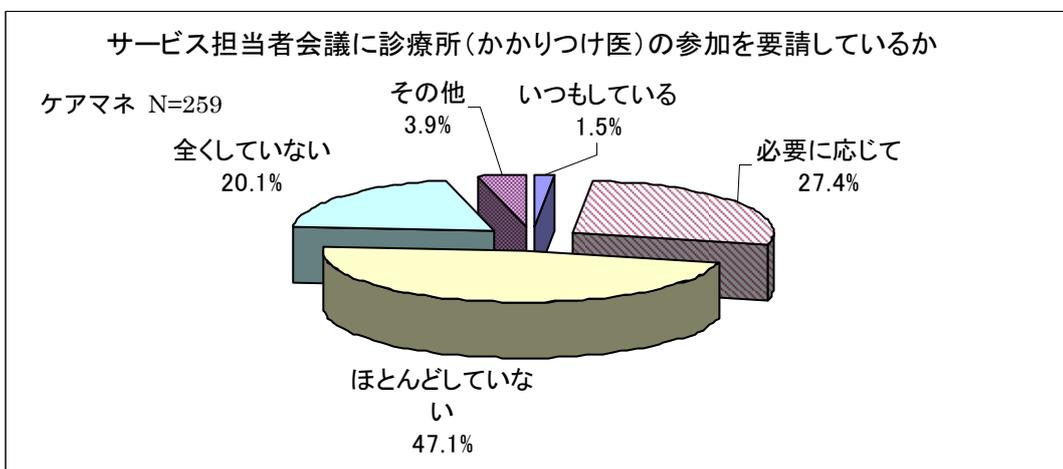
【診療所に対する調査】

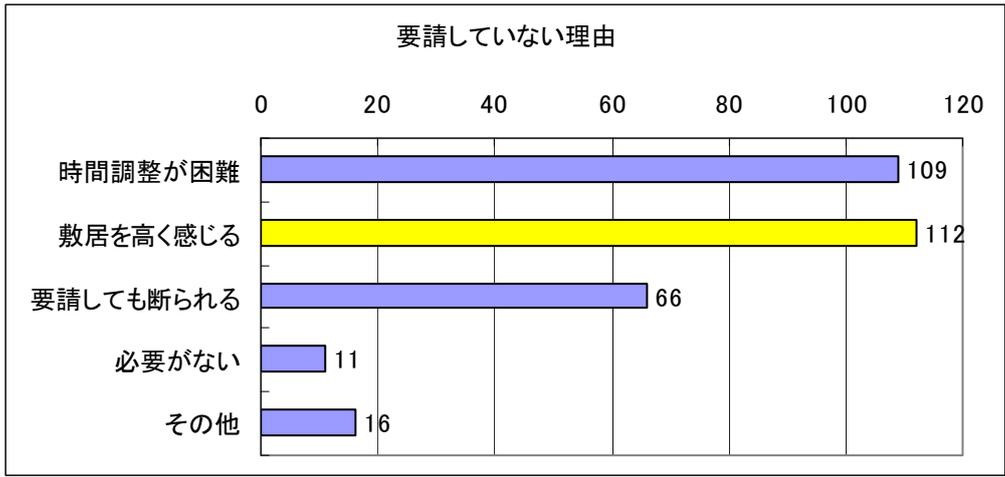


イ 「サービス担当者会議」について

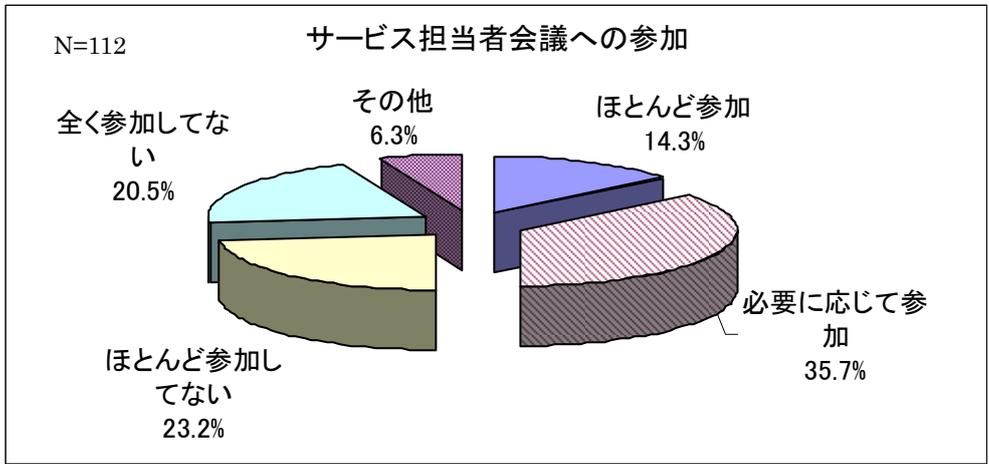
ケアマネジャーが設定する「サービス担当者会議」への診療所（かかりつけ医）の参加要請については、「ほとんど要請していない」が47.1%となっている。

その理由として多いのが、「要請しにくい（敷居が高く感じる）」、「時間調整が困難なため」となっているが、「要請しても断られる」との回答が比較的多く、多忙な医師への参加要請に対し、ケアマネジャーが躊躇しているのではないかとと思われる。





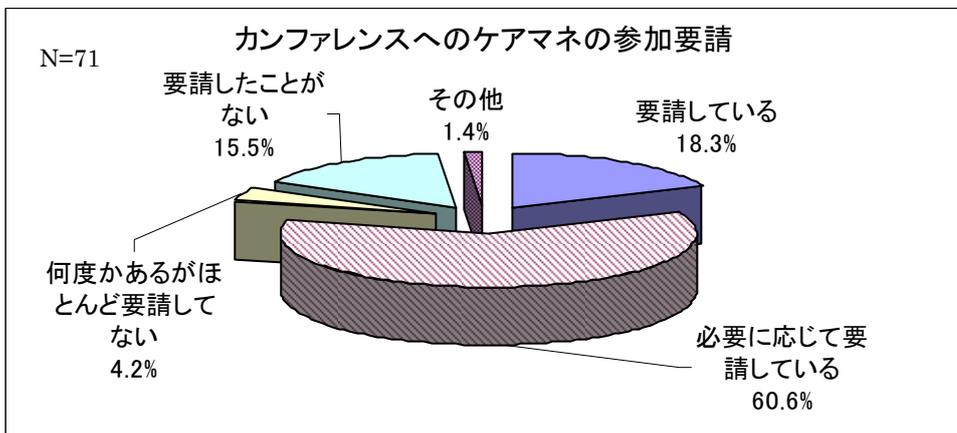
【診療所（かかりつけ医）に対する調査】

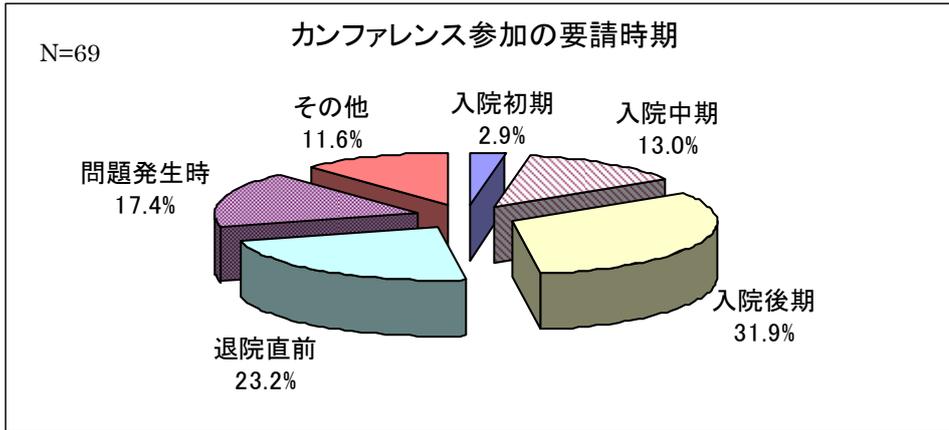


ウ 「カンファレンス」について

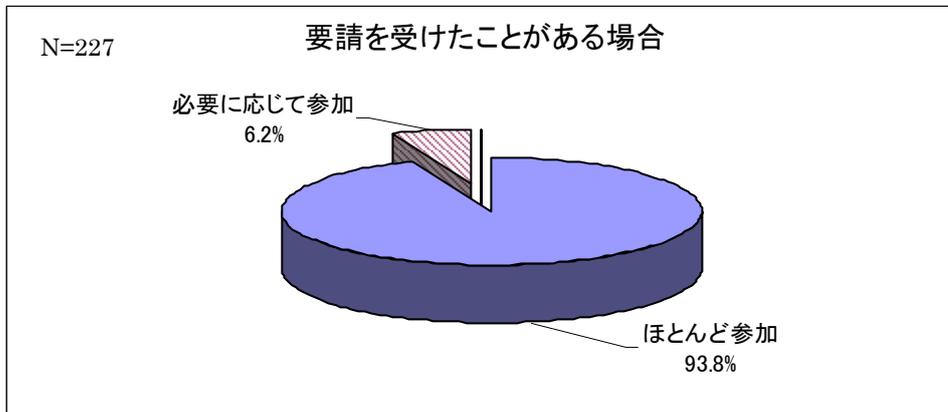
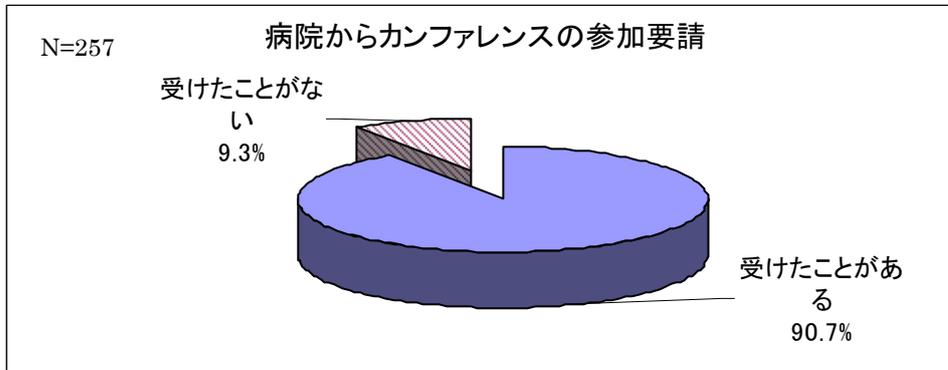
病院が行う「カンファレンス」へのケアマネジャーの参加要請については、「必要に応じて参加要請している」が60.6%と最も多く、「要請している」の18.3%を合わせると、約8割がケアマネジャーの参加を要請していることがうかがえる。

参加要請の時期は「入院後期」が31.9%、「退院直前」が23.2%となっており、退院時（在宅生活）の処遇について、ケアマネジャーとの連携を重視していることがうかがえる。





### 【ケアマネジャー調査】



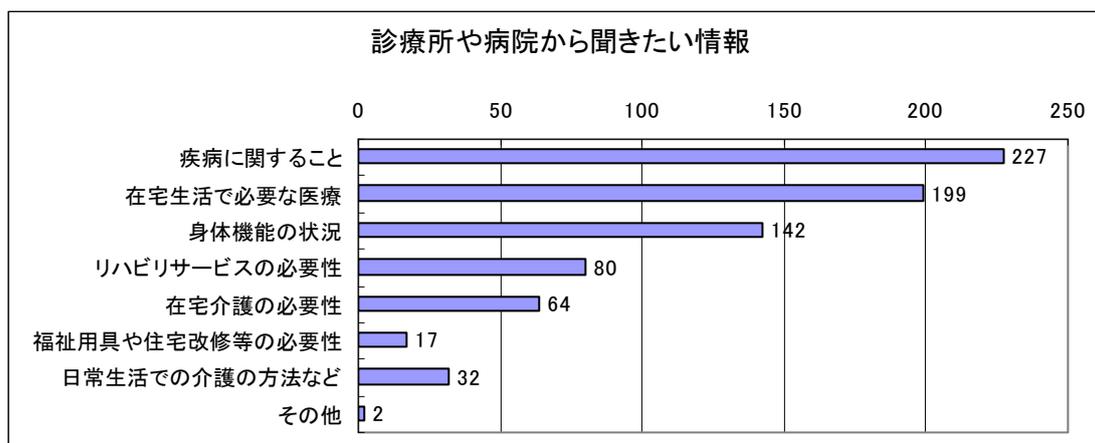
### (3) 必要な情報と情報提供について

ケアマネジャーが、診療所や病院から聞きたい情報として、「疾患名や治癒の見込みなど利用者の疾病に関すること」が最も多く、次いで「在宅生活に必要な医療」となっており、医療に関する情報が多くなっている。一方、病院や診療所は、ケアマネジャーから聞きたい情報として、「在宅での生活状況」が最も多くなっている。

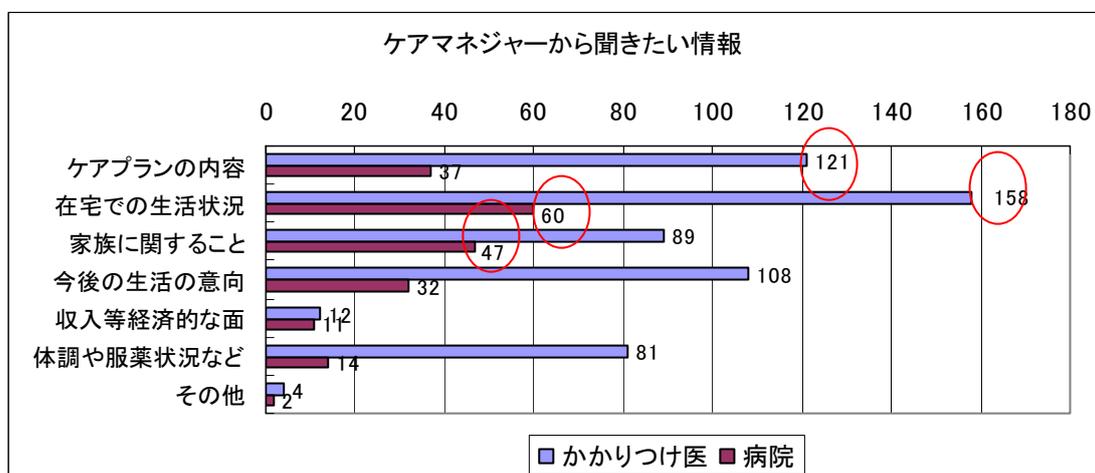
ケアマネジャーのケアプラン提供状況を見ると、「必要に応じて提供している」が36.9%と最も多くなっているものの、「ほとんど提供していない」、「全く提供していない」をあわせると29.1%となり、積極的な提供が行われていないことがうかがわれる。

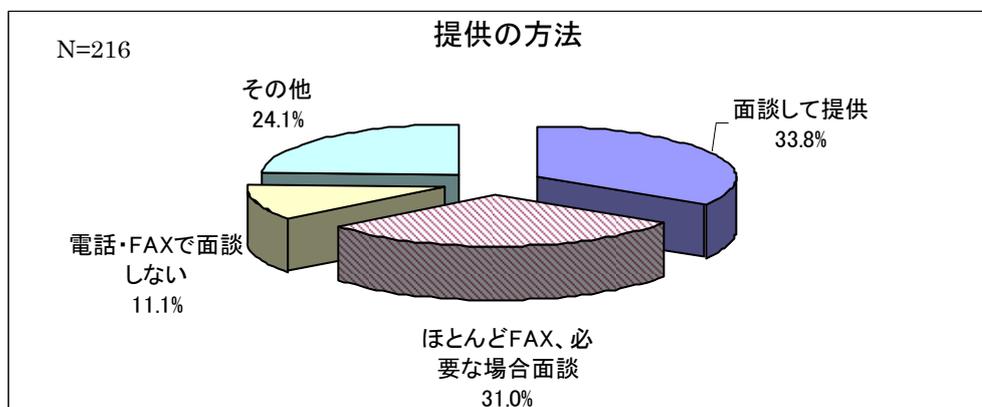
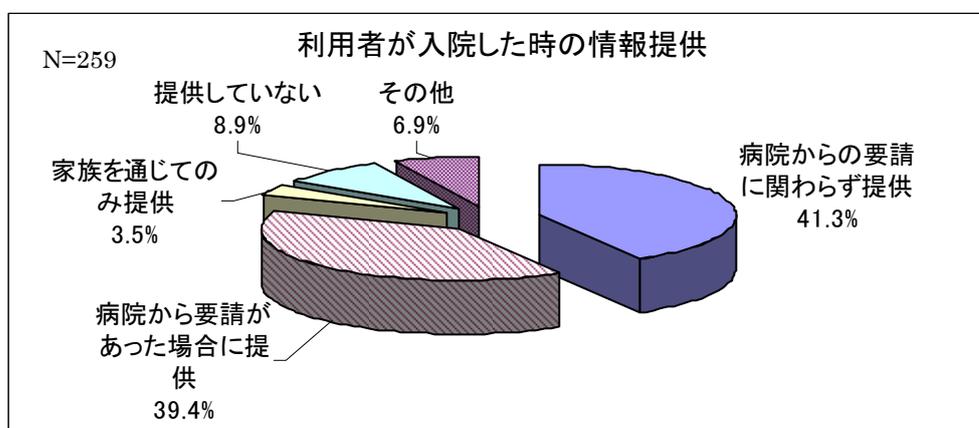
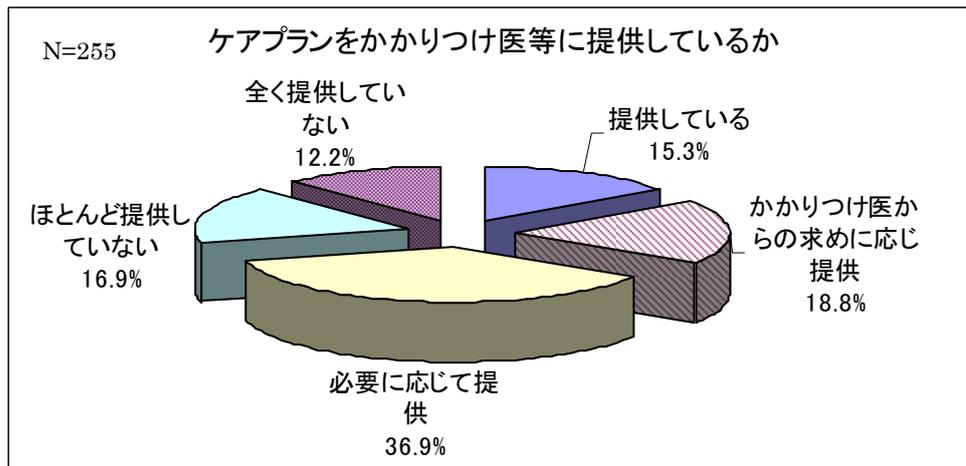
一方、利用者が入院した時の在宅での生活状況やケアプランなどの情報提供については、「病院からの要請に関わらず提供している」、「病院からの要請があった場合に提供している」がほぼ同数で多くなっている。(平成21年度の介護報酬改定で、「医療連携加算」が算定できることになったことも影響していると考えられます。) 情報提供の方法としては、「担当医等に面談して、利用者の生活状況やケアプランを提供している」が33.8%と最も多く、次いで、「ほとんどの場合、FAX等でやり取りし、必要がある場合に面談している」が31.0%、「電話、FAX等でやり取りし、面談はしていない」が11.1%となっている。

#### 【ケアマネジャーに対する調査】



#### 【診療所・病院に対する調査】

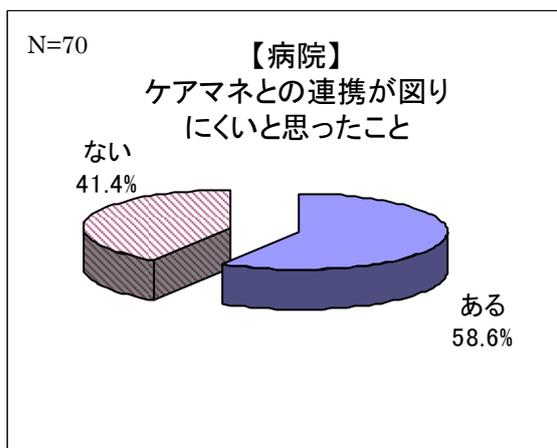
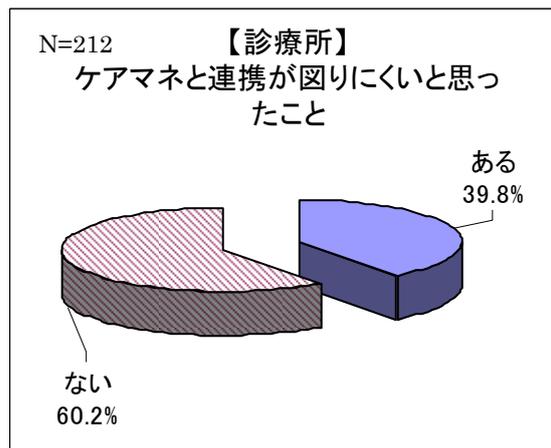
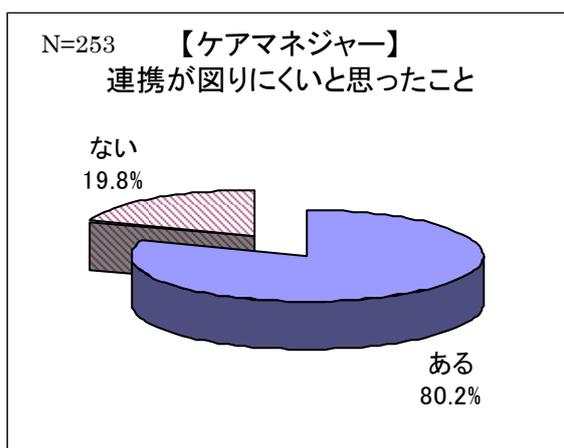




(4) 「連携が図りにくい」と思ったこと(その理由)

ア 「連携が図りにくい」と思ったことがあるか

利用者・患者の情報を得る際、「連携が図れない。連携が図りにくい。」と思ったことがあるかについて、ケアマネジャーの約8割が「連携が図りにくい」と感じたことがあると回答している。一方、診療所は約4割となっており、ケアマネジャーや病院とは違った結果となっている。

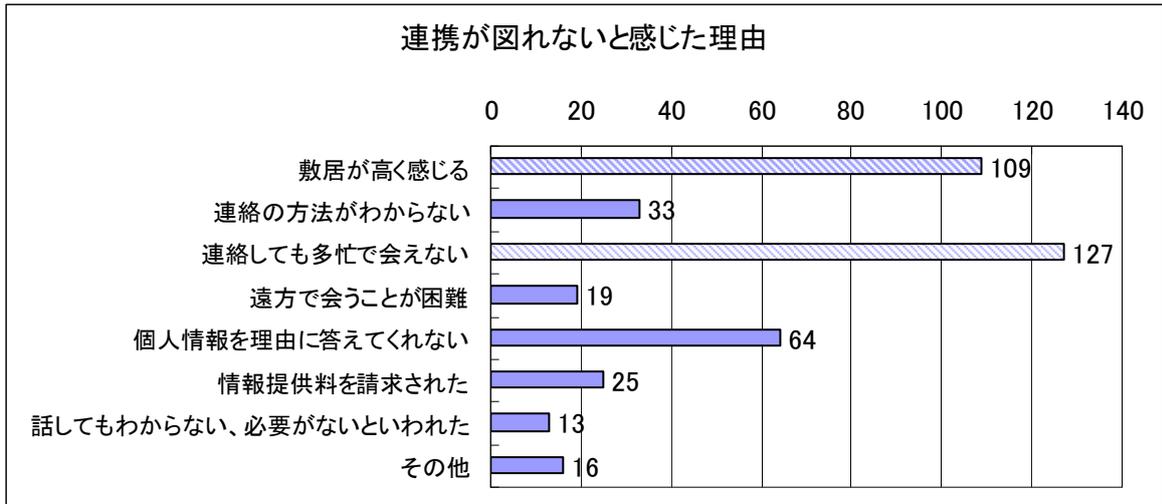


イ 連携が図りにくいと思った理由

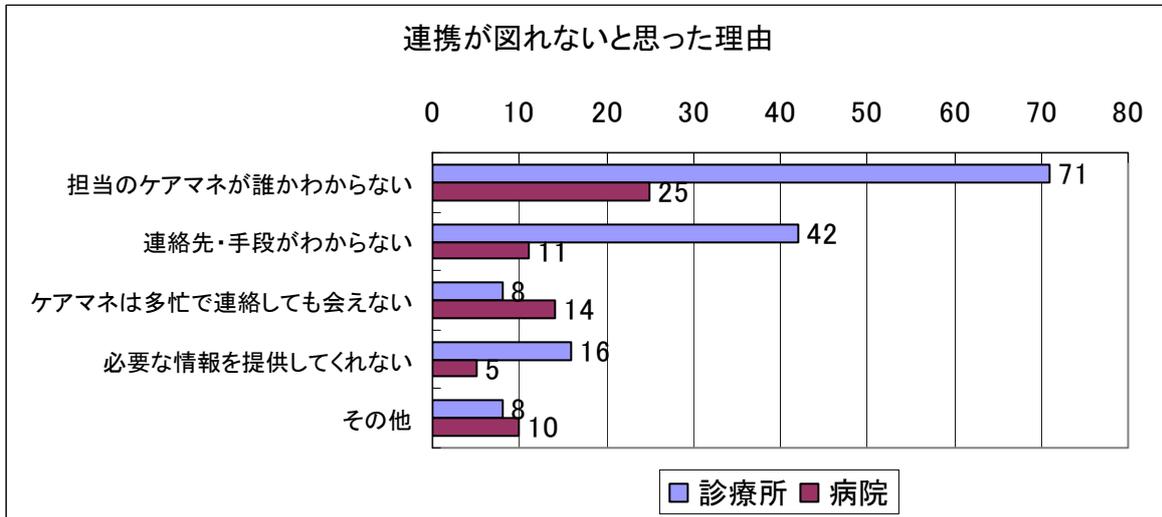
連携が図りにくいと思った理由として、ケアマネジャーでは、「かかりつけ医が多忙なため、連絡しても会ってもらえないことがある(かかりつけ医が病院の医師であるため会うことが困難)」が最も多く、次いで、「かかりつけ医に連絡することに抵抗がある(敷居が高く感じられる)」、「個人情報として理由に答えてくれないことがある」が多くなっている。基礎資格別にみると、看護師・保健師と比較して、介護福祉士に「敷居が高く感じる」あるいは「連絡の方法がわからない」といった理由が多くなっている。

一方、診療所や病院の連携が図りにくい理由は、「担当のケアマネジャーが誰かわからない」といったことが多く、さらに、個人情報を理由に必要な情報が得にくいといった状況もあることがうかがわれる。

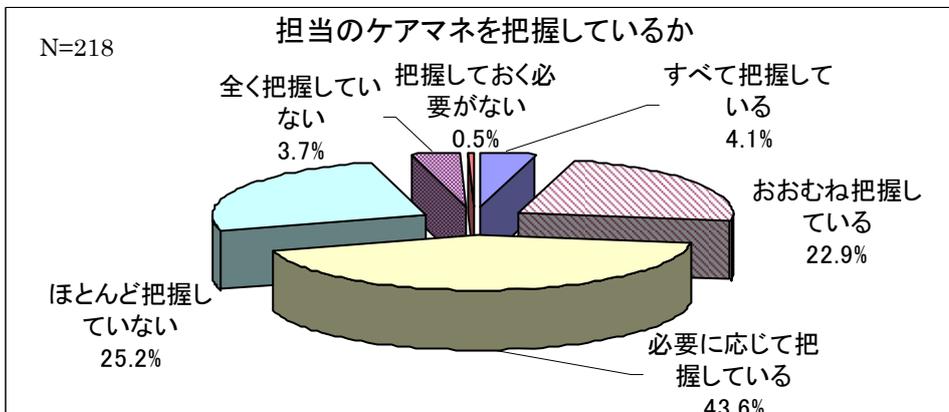
【ケアマネジャー調査】



【診療所・病院調査】



【診療所に対する調査】(再掲)



【ケアマネジャーに対する調査】

連携が図れないと感じたことがあるか

基礎資格	回答数	ある	ない
全体	253	203	50
	100%	80.2%	19.8%
看護師・保健師	80	65	15
	100%	81.2%	18.7%
介護福祉士	129	101	28
	100%	78.3%	21.7%

基礎資格	回答者数	敷居が高く感じる	連絡の方法がわからない	連絡しても多忙で会えない	遠方で会うことが困難	個人情報を理由に答えられない	情報提供料を請求された	必要がないといわれた	その他
全体	253	109	33	127	19	64	25	13	16
		43.1%	13.0%	50.2%	7.5%	25.3%	9.9%	5.1%	6.3%
看護師・保健師	80	25	6	41	7	23	11	5	7
		31.3%	7.5%	51.3%	8.8%	28.8%	13.8%	6.3%	8.8%
介護福祉士	129	62	20	62	7	32	9	6	7
		48.1%	15.5%	48.1%	5.4%	24.8%	7.0%	4.7%	5.4%

(5) 連携に必要なことや工夫していること(自由記載)

(ア) ケアマネジャー

医療連携室のソーシャルワーカーと連絡している

- ・医療連携室、ソーシャルワーカー等にまず電話して、どうやって主治医やかかりつけ医と連絡をとればよいか確認している。
- ・通常は、直接主治医と面談することはない、できるだけ看護師あるいはソーシャルワーカーと連絡を取り合い、必要な際に主治医と面談するようにしている。
- ・かかりつけ医や病院にはソーシャルワーカーを通じて連携をとっている。医師は、忙しいので連携の方法がよくわからない。

相談内容は簡潔に、要件を手短にまとめている

- ・相談がある時は、予約して、要件を手短にまとめて面談している。
- ・質問したいことを明確にしておき、時間をあまりとらないようにする。
- ・医療の必要性が大きい場合には、担当者会議に看護師さんの参加を声かけするようにしている。
- ・退院前カンファレンスはソーシャルワーカーと連携して、医師に参加していただくようにしている。

利用者が受診する時に同行している

- ・多忙な病院の主治医と連携を図るためには、本人・家族が受診の時同行し、名刺を受け取ってもらうと面談を申し込む際にスムーズに行くことが多い。
- ・定期受診時に家族と同行し、利用者様の身体状況や精神状況、サービス事業所でのこと等を報告している。また、医学的なこともその時に質問させていただいている。
- ・受診されるとき、家族や本人に了承を得て、一緒に医師の話を聞くようにしている。

その他

- ・ケアマネタイムの情報について、ネットで見られるようにするか(一覧で)2~3年ごとに新しい情報をペーパーでもらいたい。
- ・戸畑区事業所連絡会で作成した主治医連絡票を活用している。

(イ) 診療所(かかりつけ医)

担当ケアマネジャーが誰かわからない

- ・ケアマネの情報(職種は何で、何に強いのか、どこのエリアがOKか)が欲しい。
- ・どこに何というケアマネさんがいるか全く分からない状態の改善(リストの配布とか)がまず先決問題。
- ・ケアマネからのアプローチが少ない。担当ケアマネになったら必ず連絡してほしい。
- ・ケアプランを立てる高齢者の主治医には、必ず名刺程度のケアマネジャーの情報がほしい。主治医の意見書を記載する時に、事業所とケアマネジャーがわかっている場合、教えてほしい。

面識があると連携がとりやすい

- ・患者さんか家族と一緒に来ていただけたらもう少し連携も取りやすくなるのではと思う。
- ・医師とケアマネが顔を合わせる場を多くつくる必要がある。大いに話し合い、歩み寄りが

必要である。

- ・面識があると連携がとりやすので、是非連絡をいただきたい。  
要件を簡潔にまとめ、FAXを活用してほしい
  - ・連絡はFAXを積極的に活用してほしい。(送ってくれたらこちらから連絡できる。)
  - ・問題点や疑問点を簡潔にまとめてFAXしてくれれば、時間があるときにいつでも返答の相談に応じることができる。
- その他
- ・要介護認定結果について、患者の同意がないので主治医に教えられないと言われることが時々ある。主治医意見書を依頼され、作成した以上、介護度を知らせることは当然であり、又知らせてもらえなければ今後の介護指導にも支障が生じる。
  - ・ケアマネジャーに医学的なことを学んで欲しい。

#### (ウ) 病院

面談などで連携を図っている

- ・書面のみでの連携だけでなく、面談を行うことで積極的な退院前関与を依頼している。
- ・当院では、ケアマネジャーに時間調整してもらい、病院内で患者様と一緒に意見や情報を交換する場をつくり、連携を図っています。
- ・入院して早期に担当ソーシャルからケアマネへ電話をし、かかわりを持つように心がけている。入院直後から介護保険の確認を行なっている。
- ・家庭訪問、カンファレンスを多く行っている。
- ・電話で本人の状態を聞かれることがあるが、できればケアマネジャーが病棟に来院して、情報を収集していただきたい。
- ・個人情報ということで医療機関が連携をとる場合に必要な情報の提供がない場合が多い。  
ケアマネジャーの連絡先がわかるようにしてほしい
- ・患者、家族がCMの事業所名や氏名を覚えていないことがほとんどなので、それらが分かるように工夫してほしい。
- ・介護保険証にケアマネジャーと事業所の連絡先の記入があれば、入院時の連絡もスムーズに行くと思う。  
入院早期から退院後まで、関わりをもってほしい
- ・入院時より密に関わりを持って、退院後の方向性、支援を早い段階から検討していければ良いと思う。
- ・特に、入院となってしまうと「自分の役目は終わり」という風な考えのケアマネジャーもいる。入院しても患者さんの生活はずっと続くので、いずれ退院することを踏まえ、必要時には協力してもらいたい。
- ・退院時の関与、連携のみでなく、外来にてフォロー中の医療的管理、処置が必要な患者についても情報の交換、共有が必要と感じている。医療と介護が密に連携し、患者の在宅生活をサポートするため、ケアマネジャーが中心となって双方の橋渡しとなってもらえることを期待したい。

# 医療と介護の連携に関する調査

## ～ ケアマネジャーの意識調査 ～

北九州市保健福祉局

### 調査にあたってのお願い

\*本調査は、医療機関等との連携の状況を把握するための調査です。

ケアマネジメントを行う中で、かかりつけ医や病院等医療機関との連携について、日頃感じていることなど率直にお答えください。

\*ご回答いただいた内容は、本調査以外には使用いたしません。また個々の情報を外部に出すことはございません。

\*すべての回答が終わりましたら、お手数ですが、FAX（582-2598）にて、ご返送ください。

【問い合わせ先】 〒803-8501 北九州市小倉北区城内1-1

北九州市保健福祉局地域医療課

T E L 582-2678 F A X 582-2598

## 医療と介護の連携 ケアマネジャーのアンケート調査

はじめに、調査にご協力いただくあなた（ケアマネジャー）ご自身のことについてお尋ねします。該当するものに をつけてください。

Q1 性別	ア 男                      イ 女
Q2 年齢	ア 20代                  イ 30代                  ウ 40代 エ 50代                  オ 60代                  カ 70代
Q3 現在勤務している事業所の形態（単独型・併設型）	ア 単独型 イ 併設型：併設事業所で該当するものに をつけてください。 ア 病院（ ・一般 ・介護療養 ・医療療養 ・精神 ） イ 診療所                                  ウ 居宅サービス事業所 エ グループホーム                          オ 介護老人保健施設 カ 特別養護老人ホーム                  キ 在宅介護支援センター ク 有料老人ホーム                          ケ 地域包括支援センター コ その他（                                  ）
Q4 あなたが担当している利用者数（介護予防を含む）	ア 15人未満                                  イ 15人以上 20人未満 ウ 20人以上 25人未満                          エ 25人以上 30人未満 オ 30人以上 35人未満                          カ 35人以上 40人未満 キ 40人以上
Q5 現在勤務している事業所の利用者数（介護予防を含む）	ア 30人未満                                  イ 30人以上 50人未満 ウ 50人以上 100人未満                          エ 100人以上
Q6 現在勤務している事業所の所在地	ア 門司区                  イ 小倉北区                  ウ 小倉南区 エ 若松区                  オ 八幡東区                  カ 八幡西区 キ 戸畑区                  ク 市外（                          ）
Q7 ケアマネジャーになる前の出身職種	ア 看護師・保健師                          イ 社会福祉士 ウ 薬剤師    エ 歯科衛生士 オ 理学療法士                                  カ 作業療法士 キ 言語聴覚士                                  ク 介護福祉士 ケ その他（                                  ）
Q8 経験年数（ ）に年数を記入してください。	ア ケアマネジャー（ _____ ）年 イ ケアマネジャーになる前の職種（ _____ ）年



(3) 今後、ケアマネタイムを利用したいと思いますか。

- ア 大いに利用したい
- イ どちらかという利用したい
- ウ あまり利用したくない
- エ 全く利用したくない
- オ その他( )

問4 「サービス担当者会議」について

サービス担当者会議を開催するとき、かかりつけ医に参加の要請をしていますか。該当するもの1つにをつけてください。

- ア いつも要請している
- イ 必要に応じて要請している
- ウ ほとんど要請していない
- エ 全く要請していない
- オ その他( )

問5 問4で「ウ ほとんど要請していない」・「エ 全く要請していない」とお答えした方にお尋ねします。その理由で該当するものすべてにをつけてください。

- ア 時間の調整が困難なため
- イ 要請しにくい(敷居を高く感じる)
- ウ 要請しても断られる(断られた)と感じるから
- エ 要請する必要があるから
- オ その他( )

利用者が入院している時の病院等との連携について、お尋ねします。

問6 病院への情報提供について

(1)利用者が入院した時、在宅での生活状況やケアプランなどの情報を病院に提供していますか。

- ア 病院からの要請に関わらず、提供している
- イ 病院から要請があった場合に提供している
- ウ 直接は提供していないが、家族を通じてのみ提供する
- エ 提供していない
- オ その他( )

(2)(1)で「ア 病院からの要請に関わらず、提供している」・「イ 病院から要請があった場合に提供している」とお答えした方にお尋ねします。どのようにして提供していますか。該当するものに をつけてください。

- ア 担当医等に面談して、利用者の生活状況やケアプランを提供している
- イ ほとんどの場合 FAX 等でやり取りし、必要がある場合に面談している
- ウ 電話・FAX等でやり取りし、面談はしていない
- エ その他( )

問7 入院中の利用者の状況把握を含め、病院等との連携は図られていると思いますか。該当するものに をつけてください。

- ア 十分に連携が図られている
- イ おおむね連携が図られている
- ウ ほとんど連携が図られていない
- エ 全く連携が図られていない
- オ その他( )

問8 問7で「ア 十分に連携が図られている」・「イ おおむね連携が図られている」とお答えした方にお尋ねします。どのような方法で行っていますか。主な連携の方法3 つに をつけてください。

- ア 事前に時間調整を行い、かかりつけ医(病院・診療所)を訪問して面談している
- イ ほとんどの場合、質問内容を FAX 等でやり取りし、必要がある場合に面談している
- ウ 電話・FAX等で連絡を取り、面談はしていない
- エ 診療情報提供書・連携パス等の書類や手紙で連絡を取っており、面談していない
- オ カンファレンスに参加して連携している
- カ 利用者・家族を通じて話を聞いている
- キ その他( )



## 医療機関（かかりつけ医・病院）との連携について

問 13 かかりつけ医や病院の担当医等医療機関から聞きたい情報は何か。最も聞きたいものを3つまでをつけてください。

- ア 疾患名や治癒の見込みなど利用者の疾病に関すること（リスクを含む）
- イ 薬の服用、副作用、通院の必要性（頻度）など在宅生活に必要な医療に関すること
- ウ ADLなど身体機能（能力）の状況に関すること
- エ リハビリテーションサービス（通所リハ・訪問リハ）の必要性に関すること
- オ 在宅での介護の必要性に関すること
- カ 福祉用具や住宅改修等の必要性に関すること
- キ 日常生活での介護方法など家族支援の必要性に関すること
- ク その他（ ）

問 14 かかりつけ医や病院など医療機関から利用者の情報を得る際、「連携が図れない。連携が図りにくい。」と感じたことがありますか。ある場合どのようなことですか。該当するものすべてにをつけてください。

- ア ある
- イ ない

（ある場合の理由）

- ア かかりつけ医に連絡することに抵抗がある（敷居が高く感じられる）
- イ 連絡の方法がわからない（いつ、どういうふうに連絡していいのか。また、病院側の担当窓口が分からず誰に連絡すればよいかわからない）
- ウ かかりつけ医が多忙なため、連絡しても会ってもらえないことがある（かかりつけ医が総合病院の医師であるため会うことが困難）
- エ かかりつけ医が遠方で会うことが困難
- オ 個人情報などを理由に答えてくれないことがある（利用者の同意書を求められた。患者、利用者・家族を通じてしか答えない。担当の介護支援専門員である証明を求められた）
- カ 情報提供料等を請求されることがあった
- キ 治療内容などを話してもわからない、情報提供の必要がないと言われた
- ク その他（ ）

問 15 ケアプラン作成に医療情報は必要ですか。該当するものにをつけてください。

- ア 必要
- イ 必要な場合が多い
- ウ ほとんど必要ない
- エ 全く必要ない



# 医療と介護の連携に関する調査

## ～ かかりつけ医（在宅主治医）の状況調査～

北九州市保健福祉局

### 調査にあたって

\*本調査は、かかりつけ医とケアマネジャーとの連携の実態を把握するための調査です。

\*ご回答いただいた内容は、本調査以外には使用いたしません。また個々の施設に関する情報を外部に出すことはございません。

\*すべての回答が終わりましたら、お手数ですが、同封の返信用封筒に入れて、お近くのポストに投函してください。

ご記入の内容について、お尋ねすることがあると思いますので、差し支えなければ、ご回答いただいた方のお名前とご連絡先をご記入ください。

事業所名			
事業所の住所			
お名前		部署・役職・職種	
電話番号		FAX 番号	

**【問い合わせ先】** 〒803-8501 北九州市小倉北区内 1 - 1

北九州市保健福祉局地域医療課

T E L 582-2678 F A X 582-2598

問1 介護サービスを利用している患者の担当のケアマネジャーを把握していますか。該当するものに をつけてください。

- ア すべて把握している
- イ おおむね把握している
- ウ 必要に応じて把握している
- エ ほとんど把握していない
- オ 全く把握していない
- カ 把握しておく必要がない

問2 どのような時に、ケアマネジャーと連絡をとりますか。

- ア 患者が入院等の必要がある場合
- イ 患者の状態の変化により、在宅サービス等の利用について相談したい場合
- ウ 主治医意見書の内容に関して相談したい場合
- エ 患者の家族の状況等生活環境について相談したい場合
- オ その他 ( )

問3 ケアマネジャーとの連携が必要だと思う場合、実際に連携が図られていると思いますか。

該当するものに をつけてください。

- ア 十分に連携が図られている
- イ おおむね連携が図られている
- ウ ほとんど連携が図られていない
- エ 全く連携が図られていない
- オ その他 ( )

問4 問3で「ア 十分に連携が図られている」・「おおむね連携が図られている」とお答えした方にお尋ねします。ケアマネジャーとの連携はどのような方法で行っていますか。主な連携の方法3つまで をつけてください。

- ア 電話・FAX等で連絡を取り、面談はしない
- イ 事前に時間調整を行い、かかりつけ医(病院・診療所)を訪問して面談している
- ウ 通常は質問内容をFAX等でやり取りし、必要がある場合に面談している
- エ 診療情報提供書・連携パス等の書類や手紙で連絡を取っており、面談することはない
- オ 利用者・家族を通じて話を聞いている
- カ サービス担当者会議等に参加して連携をとっている
- キ その他 ( )

問5 ケアマネジャーとの連携が必要だと思うケースで、「連携が図れない。連携が図りにくい。」と思ったことはありますか。ある場合、その主な理由で該当するもの3つまで をつけてください。

- ア ある
- イ ない

(ある場合の主な理由)

- ア 担当ケアマネジャーが誰かわからないことがある
- イ 電話番号等連絡先・手段がわからないことがある
- ウ ケアマネジャーは多忙で連絡しても会えないことがある
- エ ケアマネジャーは必要な情報を提供してくれないことがある
- オ その他( )

問6 ケアマネジャーとの面談時間を設定する「ケアマネタイム」を設定していますか。設定している場合、どのように対応していますか。該当するものに をつけてください。

- ア 設定している
- イ 設定していない

(設定している場合)

- ア ケアマネタイムに申し込みがあった場合は必ず面談するようにしている
- イ ケアマネタイムでも、忙しいときは断ることがある
- ウ ケアマネタイムに関わらず、面談するようにしている
- エ ケアマネタイム以外には、面談しないようにしている
- オ その他( )

問7 ケアマネジャーから聞きたい情報は何か。聞きたい情報3つまでに をつけてください。

- ア 在宅サービスの利用状況等ケアプランの内容に関すること
- イ 在宅での生活状況
- ウ 家族構成や協力の有無など家族に関すること
- エ 患者や家族の今後の生活の意向(施設入所や要望など)
- オ 年金収入等経済的な面に関すること
- カ 日頃の体調や服薬の状況など
- キ その他( )

問8 「サービス担当者会議」への参加について、ケアマネジャーから参加の要請を受けたことがありますか。また、「ある場合」サービス担当者会議に参加していますか。該当するものに をつけてください。

- ア ある
- イ ない

(ある場合)

- ア ほとんど参加している
- イ 必要に応じて参加している
- ウ 何度か参加したことがあるが、ほとんど参加していない
- エ 全く参加したことがない
- オ その他( )



## 医療と介護の連携に関する調査

### ～ 医療機関（病院）等の状況調査～

北九州市保健福祉局

#### 調査にあたってのお願い

\*本調査は、主に病院とケアマネジャーとの連携の実態を把握するための調査です。  
調査の記入は、医療連携室等の連携を実際に行う部署あるいは医師、看護師がお  
答えください。

\*ご回答いただいた内容は、本調査以外には使用いたしません。また個々の施設に  
関する情報を外部に出すことはございません。

\* すべての回答が終わりましたら、お手数ですが、同封の返信用封筒に入れて、  
お近くのポストに投函してください。

ご記入の内容について、お尋ねすることがあると思いますので、差し支えなければ、  
ご回答いただいた方のお名前とご連絡先をご記入ください。

事業所名			
事業所の住所			
お名前		部署・役職・職種	
電話番号		FAX 番号	

【問い合わせ先】 〒803-8501 北九州市小倉北区内 1 - 1

北九州市保健福祉局地域医療課

T E L 582-2678 F A X 582-2598

問1 連携の窓口について

ケアマネジャー等との連携で窓口となるのは誰ですか。該当するものに をつけてください。

【医療連携室】	【医療連携室以外】
ア 担当医	ア 担当医
イ 看護師（病棟看護師など）	イ 看護師（病棟看護師など）
ウ ソーシャルワーカー	ウ ソーシャルワーカー
エ 事務職	エ 事務職
オ リハビリテーションスタッフ	オ リハビリテーションスタッフ
カ その他（ ）	カ その他（ ）

問2 介護保険の認定を受けていない患者の介護保険の申請等について

介護保険の申請、ケアマネジャーの選定はどのようにしていますか。該当するものに をつけてください。

(1) 介護保険の申請について

- ア 患者家族に説明し、病院が申請の手続きを代行している
- イ 患者家族に申請の手続きをしてもらう
- ウ 患者家族に申請してもらうが、必要に応じて病院が申請の手続きをすることがある
- エ 患者家族に説明することはない
- オ その他（ ）

(2) ケアマネジャーの選定について

- ア 病院がケアマネジャーを探して、患者家族に紹介する
- イ 患者家族にケアマネジャーを探すように説明する
- ウ 病院から、かかりつけ医に相談する
- エ 患者家族に説明することはない
- オ その他（ ）

(3) ケアマネジャー決定の時期について

- ア 入院直後（入院後1週間以内）
- イ 入院期間中（入院後1週間、退院前1週間以内を除く）
- ウ 退院直後（退院前1週間以内）
- エ 介護保険を申請するとき
- オ ケアマネジャーの決定に関わることがない
- カ その他（ ）

問3 ケアマネジャーとの連携について

介護保険の認定を受けている患者が入院した場合、ケアマネジャーへの「入院の連絡」はどのようにしていますか。該当するものに をつけてください。

- ア ほとんどの場合、連絡している
- イ 必要に応じて、連絡している
- ウ 患者家族から連絡してもらう
- エ 連絡することはない(ケアマネジャーから連絡があるのを待つ)
- オ その他( )

問4 ケアマネジャーとの連携が必要だと思う場合、実際に連携が図られていると思いますか。

該当するものに をつけてください。

- ア 十分に連携が図られている
- イ おおむね連携が図られている
- ウ ほとんど連携が図られていない
- エ 全く連携が図られていない
- オ その他( )

問5 問4で「ア 十分に連携が図られている」・「おおむね連携が図られている」とお答えした方にお尋ねします。ケアマネジャーとの連携はどのような方法で行っていますか。 主な連携の方法3つまで をつけてください。

- ア 事前に時間調整を行い、病院で面談している
- イ 通常は質問内容をFAX等でやり取りし、必要がある場合に面談している
- ウ 電話・FAX等で連絡を取り、面談はしない
- エ 診療情報提供書・連携パス等の書類や手紙で連絡を取っており、面談することはない
- オ カンファレンス等に参加して連携をとっている
- カ 利用者・家族を通じて話を聞いている
- キ その他( )

問6 ケアマネジャーとの連携が必要だと思うケースで、「連携が図れない。連携が図りにくい。」と思ったことはありますか。ある場合、その主な理由で該当するもの 3つまで をつけてください。

- ア ある
- イ ない

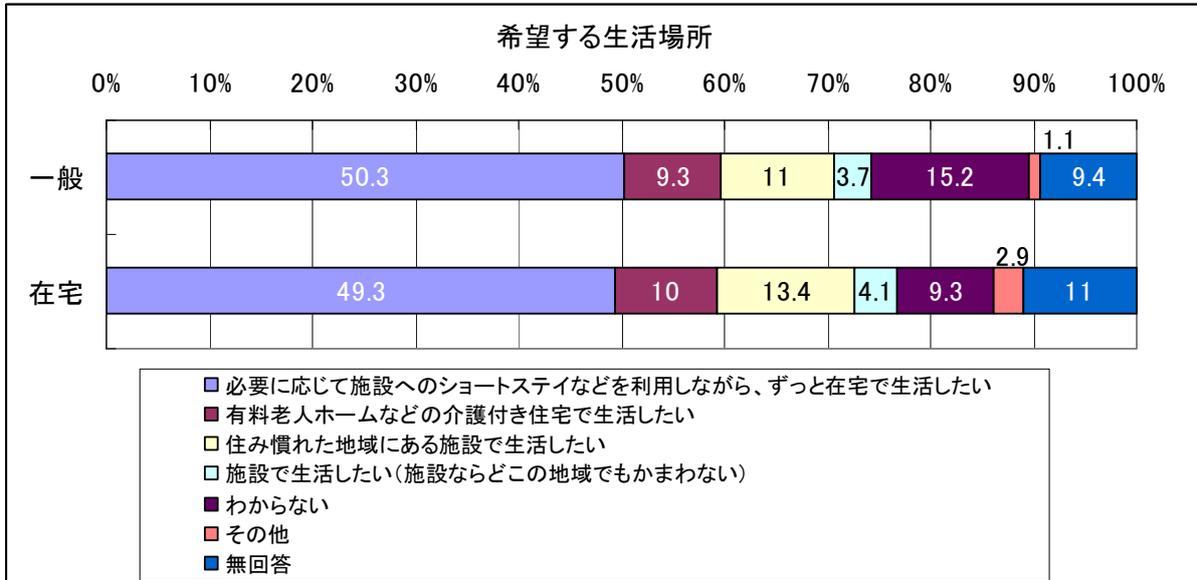
(ある場合の主な理由)

- ア 担当ケアマネジャーが誰かわからないことがある
- イ 電話番号等連絡先・手段がわからないことがある
- ウ ケアマネジャーは多忙で連絡しても会えないことがある
- エ ケアマネジャーは必要な情報を提供してくれないことがある
- オ その他( )



【介護が必要になった時に希望する生活場所】

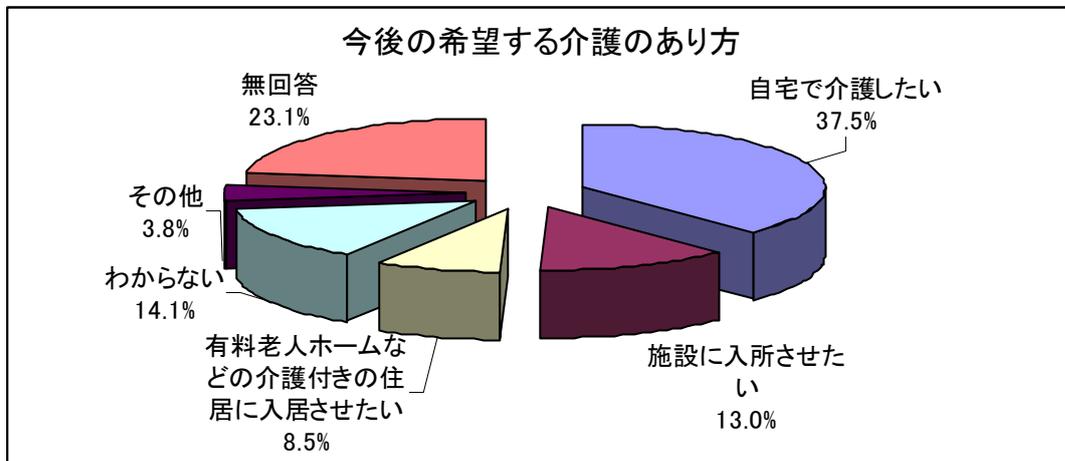
介護が必要になった時に希望する生活場所をみると、「ショートステイなどを利用しながら在宅で生活」と回答した人が、『一般高齢者』、『在宅高齢者』ともに約半数に達しており、在宅での生活を望む人が多いことがわかる。



注) 一般：平成 19 年 10 月 1 日現在、北九州市在住の高齢者（65 歳以上）の中から無作為抽出した 2,000 人（要支援・要介護認定を受けている高齢者除く。回答者 1,452 人）  
 在宅：平成 19 年 10 月 1 日現在、北九州市在住で介護保険の要支援・要介護の認定を受けている高齢者の中から無作為抽出 2,500 人（回答者 1,484 人）

【今後の希望する介護のあり方】

介護者が希望する「今後の介護のあり方」をみると、「自宅で介護したい」が 37.5%と最も多い。自宅以外での介護である、「施設に入所させたい」(13.0%)、「有料老人ホームなどに入居させたい」(8.5%) を合わせても 21.5%であり、自宅での介護を望む介護者が多いことがわかる。



## 五十音順（敬称略）

	氏名	所属・役職	他の役職・専門分野等
委員長	いしつか たかお 石東 隆男	北九州市医師会 副会長	九州労災病院副院長
副委員長	はまむら あきのり 浜村 明德	小倉リハビリテーション病院院長	日本リハビリテーション病院・施設協会会長 介護老人保健施設「伸寿苑」施設長
	かつた としろう 勝田 俊郎	北九州市立医療センター 脳神経外科	脳神経外科主任部長
	こがねまる ふみたか 小金丸 史隆	北九州市医師会 理事	こがねまるクリニック院長
	さいとう まさし 斉藤 雅	福岡県介護老人保健施設協会副会長 北九州ブロック会長 北九州市医師会精神科医会会長	介護老人保健施設「ナーシングセンター八幡」施設長 八幡厚生病院院長
	さえき みつる 佐伯 満	北九州市立総合療育センター 所長	小児リハビリテーション
	しらき ひろこ 白木 裕子	（社）福岡県介護支援専門員協会 常任理事北九州支部長	看護師 介護支援専門員
	たちめ あきら 立目 章	北九州市障害者地域生活支援センター 副センター長	障害者支援
	はしもと たかし 橋元 隆	九州リハビリテーション大学校理学療法学科教授	福岡県理学療法士会 相談役
	はちすか けんじ 蜂須賀 研二	産業医科大学 リハビリテーション医学講座教授	学識経験者 リハビリテーション専門医
	ひらやま かつこ 平山 勝子	小倉記念病院 医療連携課長	医療連携室事務
	まつい つよし 松井 強	北九州市民生委員児童委員協議会 副会長	小倉北区民生委員児童委員協議会 会長
	みやざき ただこ 宮崎 忠子	地域包括支援センター門司3 主任介護支援専門員	介護支援専門員 社会福祉士

\*平成 21 年 6 月現在